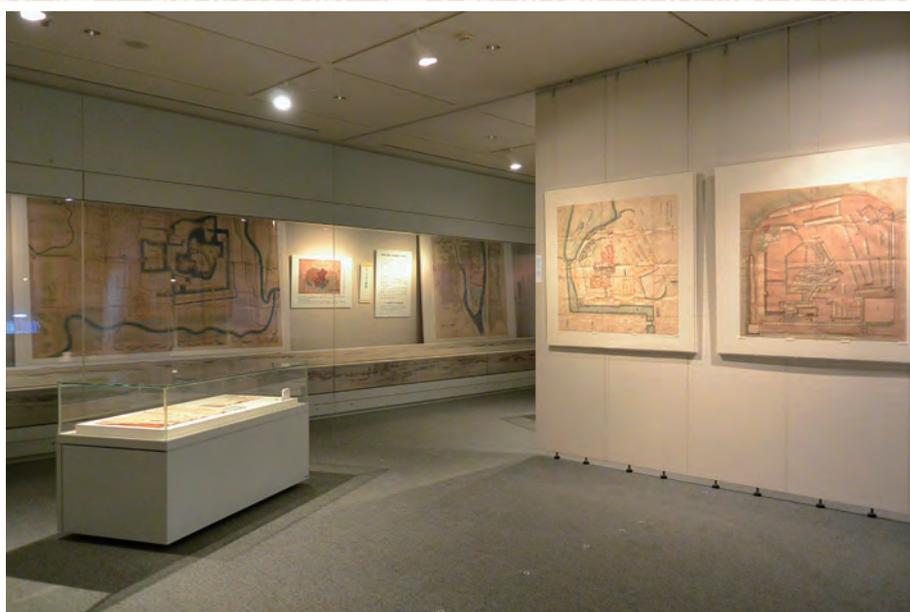


明治大学博物館

年報

2014年度



明治大学博物館

明治大学博物館

年 報

2014年度



明治大学博物館

目次

| | | |
|-----|------------------------|----|
| 巻頭言 | 博物館長 風間信隆（明治大学商学部教授） | 5 |
| I | 展示活動 | 7 |
| 1 | 特別展（7） | |
| 2 | 特別企画展・震災復興支援展覧会（10） | |
| 3 | その他の展示会（14） | |
| II | 教育普及活動 | 16 |
| 1 | 講座（16） | |
| 2 | 博物館実習（17） | |
| 3 | 在学生対象事業（17） | |
| 4 | アウトリーチ活動（18） | |
| 5 | 社会連携・大学間連携（18） | |
| 6 | ボランティア受け入れ（19） | |
| 7 | 情報提供（19） | |
| 8 | 明治大学博物館友の会（20） | |
| III | 研究活動・研究奨励基金 | 22 |
| 1 | 調査研究活動（22） | |
| 2 | 学芸員の研究業績（23） | |
| 3 | 刊行物（23） | |
| 4 | 大久保忠和考古学振興基金（24） | |
| IV | 収蔵資料 | 26 |
| V | 統計・資料 | 33 |
| 1 | 入館データ（33） | |
| 2 | 組織・構成（36） | |
| 3 | 予算・決算（38） | |
| 4 | 施設概要・見取り図（40） | |
| 5 | 規定（42） | |
| 6 | 2014年度教育・研究に関する計画書（49） | |
| 7 | 明治大学博物館のあゆみ（53） | |

＜巻頭言＞

博物館長 風間 信隆
(明治大学商学部教授)

大学博物館は、大学と一般社会をつなぐ窓口として、大学での教育・研究の成果を広く社会に発信することを使命としておりますが、現在、明治大学博物館は、そのミッションとして、1：収蔵資料の管理と教育・研究機能の拡充、2：学内共同利用機関としての機能拡充、3：社会貢献・社会連携の拡充を掲げ、明治大学における「知の社会発信」、すなわち明治大学の研究と教育の社会へのリエゾン機能を強化することを目指しております。当館が全国の私立大学博物館の中でも特に高い評価を受けておりますのは、法人・教学一体となった全面的なご理解とご支援、さらには 450 名を超える「博物館友の会」の皆様の多大なご協力に支えられていると同時に、当館の歴史の中で蓄積されてきた、30 万点を超える収蔵資史料と明治大学が有する充実した研究資源・研究成果の豊富さに拠るものであると考えております。これからも博物館はその使命を自覚し、明治大学の社会的発信力の一翼を担う役割を強化していかねばなりません。

さて 2014 年度において当館の特筆すべき展示活動としては、2014 年 10 月 11 日から 12 月 11 日に開催された特別展「藩領と江戸藩邸～内藤家文書の描く岩城平・延岡・江戸～」をあげることができます。今回の特別展は、江戸時代の内藤藩と近代の内藤家の歴史を書き留めた、約 5 万点に及ぶ「内藤家文書」が明治大学に移管されて半世紀という一つの節目を迎えることから企画され、開館期間中には約 4 千名の来館者をお迎えすることができました。今回の特別展では、内藤家文書をひもといて、藩領と江戸藩邸を基点に広がる江戸時代の藩を描き、また、各時代、各領地をつないだ内藤家文書のあり様や、廃藩置県後の内藤家文書の行方など、磐城平から始まって、明治大学に譲渡されるまでの内藤家文書の歩みを辿り、内藤家文書の歴史的価値に光を当てることができました。今回の展示に当たっては、いわき市教育委員会と延岡市教育委員会から貴重な資料の貸し出し等でご協力・ご支援をいただきました。ここに記して心より感謝申し上げます。

またアカデミーコモンに移設・統合された新博物館の開館 10 周年を記念した特別企画展として「明大博物館クロニクル」を 2014 年 5 月 3 日から 6 月 22 日まで開催いたしました。明治大学新博物館は旧 3 館（刑事博物館・考古学博物館・商品博物館）を統合して 2004 年にリニューアル・オープンしました。しかし、その財産はこれまでの歴史の中で収集・研究されてきた豊富なコレクションにあります。今回の特別企画展では、旧 3 博物館の成立から今日に至る歩みの中でコレクション形成の経緯を検証し、常設展示室では公開されていない資料を数多く出展し、開館期間中に 4,500 名に上る来館者をお迎えしました。

さらに大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定に基づき、大船渡市博物館の活動支援の一環として大船渡市立博物館において 7 月 26 日から 8 月 31 日まで「明治大学コレクションの世界」と題する展覧会を行い、大船渡市の多くの市民の方々に明治大学の研究資源の豊富さに触れていただく機会となりました。またこの開催期間中には、当博物館学芸員による 2 回にわたる「成人大学講座（明治大学博物館市民レクチャー）」と「夏休みこども大学（出張！子供はにわ教室）」も開催されました。また東日本大震災復興支援事業の一環として、明治大学震災復興支援センターとの共催による展覧会「失われた街が語りかけるもの～リアス・アーク美術館 東日本大震災と津波の記録～」を 2015 年 2 月 23 日から 3 月 26 日にかけて開催いたしました。リアス・アーク美術館では、2011 年 3 月 11 日に発生した震災と津波による被害

を地域の重要な歴史・文化的記憶として後世に伝えるため学芸員が中心となって災害被害の実態記録・調査が行われましたが、その同館の常設展「東日本大震災の記録と津波の災害史」から貴重な記録資料をご出展頂きました。

さて、明治大学文学部史学地理学科考古学専攻第 41 期卒業生の故大久保忠和氏の遺志を生かすため、ご遺族から寄せられた指定寄付金をもとに「大久保忠和考古学振興基金」が設置され、十数年にわたって、考古学の振興および博物館の発展に資する、優れた調査・研究に資金助成を行ってきました。2014 年度をもって本基金の奨励研究募集は終了し、最後となる奨励研究の授与式が 2014 年 4 月 15 日に忠和氏のご父母である大久保ご夫妻をお招きして開催されました。

当館は 2012 年度から「どこでもいつでも見学できる」ICT ミュージアム構想の実現を目指し、その第一歩として明治大学ユビキタス教育推進本部のご支援の下で特別展のデジタル・アーカイブ化を図ってまいりました。今年度は特別展「藩領と江戸藩邸～内藤家文書の描く岩城平・延岡・江戸～」と新博物館開館 10 周年特別企画「明大博物館クロニクルー過去・現在・そして、未来ー」の映像デジタル・コンテンツを製作し、当館ホームページでストリーミング公開を致しました。今後、常設展示のコンテンツを含め、このアーカイブを充実させ、当博物館の社会発信力の充実・強化を図っていきます。

明治大学博物館は、そのミッションを明確化し、その使命を果たすために博物館の諸活動を絶えず点検・見直し、改革を進めていくことが博物館という組織の効率性 (efficiency) と効果性 (effectiveness) の向上のために必要不可欠です。その際、博物館も、明治大学という全学的観点から、当館が果たす役割を見つめ直す、という全体最適化志向が不可欠です。そうした観点から大学の発展のために博物館はいかなる役割を果たすべきか、また果たしうるのかを引き続き検討していきます。そのためにも博物館内部の議論と検討だけではなく、学内の関係各位・諸機関との積極的な「対話」(dialogue) と「共有される価値の創造」(Creating Shared Value) が不可欠であると考えております。



I 展示活動

1 特別展

藩領と江戸藩邸 ～内藤家文書の描く磐城平・延岡・江戸～

(1) 実施形態

主催 明治大学博物館 後援 いわき市教育委員会、延岡市教育委員会
 会期 10月11日(土)～12月11日(木) 62日間 (会期中無休)
 会場 明治大学博物館特別展示室 入場料 ¥300 入場者数 3,825名
 企画構成 日比佳代子(刑事部門学芸員)

(2) 趣旨

江戸時代の内藤藩と近代の内藤家の歴史を書き留めた内藤家文書は、明治大学に移管されて2013年に50年目を迎えた。さらに、2015年には目録刊行から50年目を迎える。半世紀に及ぶこの歴史を記念し、2014年度は内藤家文書の展覧会を開催した。

内藤家は上総国佐貫(現・千葉県)、陸奥国磐城平(現・福島県)、日向国延岡(現・宮崎県)を藩領とした譜代大名であるが、江戸時代の藩は、国元だけではなく、江戸屋敷や大坂屋敷、飛地などの空間からも構成されており、その活動は藩領に限定されたものではなかった。江戸期の内藤家文書には、佐貫藩時代(元和8、1622年まで)の記録は殆ど残されておらず、磐城平藩時代(延享4、1747年まで)、延岡藩時代(延享4年以降)の記録が現在に伝わる。そして、この中には国元の統治に関する記録だけではなく、江戸藩邸の記録も含まれている。内藤家文書の概要を、大きくは国元、そして江戸藩邸、加えていくつかの派生する地点一大坂や飛び地一に関する記録群だと説明する事も可能である。このような内藤家文書の存在形態そのものが、「藩」が複合的な要素によって成立している事を示している。

本展示会では、内藤家文書をひもといて、藩領と江戸藩邸を基点に広がる江戸時代の藩を描いた。また、各時代、各領地をつないだ内藤家文書のあり様や、廃藩置県後に行政資料としての役割を終えた内藤家文書の行方など、磐城平から始まって、明治大学に譲渡されるまでの内藤家文書の歩みをたどり、歴史を伝える長い営みのバトンを受けて、現在の内藤家文書がある事を展示で示した。

(3) 展示構成

I 江戸藩邸

- 1、絵図でみる江戸藩邸
- 2、内藤家の抱屋敷
- 3、江戸の藩主と藩士達

安政3年のものと考えられている『諸向地面取調書』(江戸市中にある大名や幕臣の武家屋敷調査書)によれば、内藤家は虎ノ門上屋敷1万515坪余、六本木下屋敷9361坪余、中渋谷村抱屋敷1万4005坪余を有していた。今回の展示会では初紹介となる「内藤家江戸上屋敷絵図」「江戸御上屋敷絵図」「江戸六本木屋敷絵図」「中屋敷御住居絵図」などの大型絵図をまじえ、これまで十分に紹介されていなかった内藤家の江戸屋敷について展示をおこなった。また、国元と江戸で俳諧活動を展開した藩主内藤義概(風虎)やその息子義英(露沾)に関する古文書や印章、江戸で暮らす家臣達に関する古文書などを展示した。

II 磐城平領

- 1、磐城平と内藤家
- 2、磐城平藩と海岸の風景
- 3、大名と藩領

内藤家は元和8(1622)年から延享4(1747)年まで陸奥国磐城平7万石を治めた。ここでは「奥州岩城平之城絵図」や「磐城七浜捕鯨絵巻 浜の巻」などの史料を展示した。「磐城七浜捕鯨絵巻 浜の巻」は、身分の高い人物が捕鯨を見覧する様子を描いた「海の巻」と一揃いで内藤家に伝来したもの。「浜の巻」「海の巻」とともに10メートルを超える巨大絵巻で、内藤家の寄贈により現在はいわき市が所蔵する。磐城平藩領の七つの浜を背景に捕鯨の様子を描いた「浜の巻」には、内藤家統治時代の磐城平の海岸線の様子が詳しく描きこまれている。

Ⅲ 延岡領

- 1、旧領、江戸、大坂からみる延岡藩
- 2、充真院、江戸と延岡を旅する

延享4(1747)年の国替により、内藤家は日向国延岡へ移動する。延岡への転封が内藤家の財政に与えた影響や、延岡時代の内藤藩の年間予算にしめる江戸藩邸の経費などを史料から紹介した。また、文久3(1863)年と元治2(1865)年に江戸と国元を往復した藩主祖母充真院の絵入り旅日記から、江戸と延岡の往来の様子を示した。

Ⅳ 藩の終わりと文書

- 1、江戸藩邸、延岡城、文書の行方
- 2、旅する古文書

江戸屋敷・延岡城のその後について記した史料や、内藤藩の様子を書き記した記録類が廃藩置県後にどの様に管理されてきたのかを知りうる史料などを紹介した。また、昭和38(1963)年内藤家文書が明治大学に有償譲渡された際の記録を展示し、明治大学が内藤家文書を所蔵する事になった事情を紹介して展示の締めくくりとした。

(4) 展示資料概要

- ①出展数 40点(内借用資料2点) ②協力機関 いわき市立美術館

(5) 特別展関連イベント

- ①開幕記念講演会 リバティアカデミーオープン講座

【演題】譜代大名とは何か

講師：三宅正治(福島大学) 日時：10月10日(金) 15:00～16:30

会場：グローバルフロント1階 グローバルホール 参加者：148名

- ②リバティアカデミー連続講座「藩領と江戸藩邸」

「絵文字の殿様」講師 白石直樹(柳川古文書館) 10月25日(土) 13:00～14:30

「藩領と江戸藩邸」講師 日比佳代子(明治大学博物館) 11月8日(土) 13:00～14:30

「地域文化財の保全・活用について」講師 小野孝太郎(福島県歴史資料館) 11月22日(土) 13:00～14:30

会場：博物館教室 受講登録者：26名

- ③博物館友の会共催講演会

【演題】貴族院・華族研究とオーラルヒストリー

講師：内藤一成(宮内庁書陵部) 日時：12月6日(土) 13:00～14:00

会場：博物館教室 参加者：15名

(6) 特別展映像デジタルコンテンツの作成

2014年度特別展「藩領と江戸藩邸～内藤家文書の描く磐城平・延岡・江戸～」の映像デジタルコンテンツ(約20分)を制作。博物館ホームページにおいて公開中。

制作・著作：ユビキタス教育推進事務室・明治大学



展示室入り口



展示風景



開幕式典（日高憲三理事長の挨拶）



開幕式典（福宮賢一学長の挨拶）



開幕記念講演会（講師 三宅正治氏）



連続講座（講師 白石直樹氏）

2 特別企画展・震災復興支援展覧会

明大博物館クロニクル（開館 10 周年記念特別企画展示）

（1）実施形態

- 主 催 明治大学博物館
会 期 5 月 3 日（土）～6 月 22 日（日） 55 日間（会期中無休）
会 場 明治大学博物館特別展示室 入場無料 入場者数 4,385 名
企画構成 外山 徹（商品部門学芸員）、島田和高（考古部門学芸員）、日比佳代子（刑事部門学芸員）、
忽那敬三（考古部門学芸員）

（2）趣旨

アカデミーコモン新博物館の開館 10 周年を記念し、これまでの来歴を検証し将来を展望する趣旨の特別企画展を開催した。

大学における生涯学習の機運が高まり、教育・研究に次ぐ大学第 3 の役割として社会連携が提唱され始めていた 1990 年代の後半、建設計画中の新校舎（後のアカデミーコモン）に生涯教育棟の機能を付与する方針となり、社会に開かれた大学にふさわしく博物館が収容されることになった。博物館として存立する所以でありそのアイデンティティを形成するものは収蔵されているコレクションであるが、旧 3 館時代（刑事博物館・考古学博物館・商品博物館）に遡ってコレクション形成の経緯を検証し、普段常設展示室に公開されていない資料を多く出展した。

（3）展示構成

刑事博物館設立

1929 年、「刑事博物」を収集する刑事博物館が設立される。刑罰は受刑者に対する教育を第一とする教育刑論が背景にあった。江戸時代の文献などを元に刑具・拷具を模造、現在常設展示室に展示されている大形の展示品の多くがこの時期に制作されている。

刑事博物館再興

第 2 次大戦後の復興・再開にあたっては刑罰器具の収集から離れ、近世法律文書および明治立法史関係文書の収集という方針が採用された。法律を生み出す社会そのものを広く見据え、地方文書、町方文書、寺社文書、武家文書の全てが収集の対象となった。

商品研究所資料室の設置

商学部教員による研究グループ—商品研究所による資料収集の開始（1951 年）からしばらく、当時の重点収集対象であった貿易商品及び繊維標本を初めとする原材料標本類を展示。高度経済成長前半の動向を示している。

考古学陳列館の設置

1950 年 1 月 25 日、それまでの夜学専門部に代え、文学部考古学専攻が設置された。1947 年以降の増加が顕著となった発掘出土品の管理・公開を目的とし、また、杉原荘介によって戦前に行われた千葉県市川市内での発掘出土品はじめ杉原個人の所蔵資料も収蔵して、1952 年、考古学陳列館が開館した。

発掘ラッシュの時代

館費による発掘調査は開館から 1985 年までに 44 遺跡でおこなわれ、そのほかにも多数の発掘調査が実施されその大多数は 1950 年代と 1960 年代に集中しており（1969 年までに計 210 遺跡）、考古部門収蔵資料の形成期であった。

古文書（刑事）

刑事部門の収蔵資料の多くを占めるのが古文書である。出羽国関係文書や相模国関係文書などをはじめとする地方文書、譜代大名内藤家文書など約 18 万点を越える数が収蔵され、有数の史料保存機関となっている。

伝統的工芸品の収集（商品）

1970 年代初頭の再興時に収集の重点対象として選定され、現在に方針が引き継がれている手工業製品（伝統的工芸品）について、その前段階となった 1950 年代後半における地方物産品の収集に遡り紹介。工業化社会の弊害顕在化にともなう天然素材や伝統文化の再評価という風潮を反映していた。

発掘以外の資料収集

発掘調査と並行し、収蔵している国内の考古資料を補完する資料、日本考古学を研究する上で比較資料となりうる海外の考古資料という 2 つの方針のもと、設立当初から購入や寄贈による参考資料の収集もおこなった。

個性的なコレクション（刑事）

拷問・刑罰具や古文書以外にも特徴的な資料が収蔵されている。開館初期から現在に続く高札コレクション、時代考証家の故名和弓雄氏から譲り受けた十手捕者道具のコレクションを紹介。

現在の資料収集（刑事）

展示や教育普及活動への利用を念頭に、“江戸時代の捕者やこれに関わる武術のあり方を視覚的に理解出来るような資料”として古典籍・絵画資料を収集。また、所蔵古文書の関連史料や関連する古地図類を収集している。

学際研究の素材として（商品）

新博物館の開館後、商品部門における教育研究体制の再構築を目指して商学部教員との連携による「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクトの研究成果としての収集品、理工学部・文学部の教員との連携による漆研究の一環として収集した2000年代における漆器製品の新開発商品。

アカデミーコモン時代とこれから（考古）

特別展とリンクした資料収集、更新世人類（化石人類）および関連旧石器時代資料のレプリカ、玉里舟塚古墳の再研究による新たな埴輪の復元などについて紹介。

前場幸治瓦コレクション

2009年に譲り受けた、江戸時代から続く大工で前場工務店取締役でもあった前場幸治氏（1933-2011）が収集した古代から現代に至る日本及び世界各地の瓦の一大コレクション。

坂本万七写真研究所コレクション

戦時中から昭和にかけて活躍した写真家坂本万七（1900-1974）が遺したフィルム・プリント。撮影は、演劇・仏像・考古資料・現代絵画・彫刻・工芸・戦前の沖縄など様々なテーマでおこなわれた。

時田昌瑞ことわざコレクション

2007年に受贈したことわざ・いろはカルタ研究家の時田昌瑞氏によるコレクションの紹介。時田氏のコレクションは古典籍・参考図書が図書館、絵画史料や工芸品、カルタ類が博物館へ収蔵されている。

（4）展示資料概要**①資料数**

刑事) 30点 考古) 遺跡・コレクション 26件 前場コレクション 6点 他 20点
商品) 54点 時田コレクション 12点

（5）特別展関連イベント

それいけ！博物館探検隊一触れて体験、楽しく学ぼうー

関連事業を国際博物館の日記念事業として位置付け、博物館の資料収蔵機能と収蔵資料に親しんでもらうため、通常の訪問時に体験できないイベントを用意した。

日時：5月17日（土）13:00～16:30

内容：バックヤードツアー 定員10名 13:30 14:30 15:30 参加者28名

馬形ハニワ・マンモス（レプリカ）と記念撮影（エントランス）

捕者道具ハンズ・オン（博物館教室）参加者93名

触れて学ぶ考古学（体験学習室）参加者70名

明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで**（1）実施形態**

主催 明治大学博物館、大船渡市立博物館

後援 朝日新聞盛岡総局、読売新聞盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、岩手日報社、岩手日日新聞社、河北新報社盛岡総局、東海新報社、IBC岩手放送、NHK盛岡放送局、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ

会期 7月26日（土）～8月31日（日） 37日間（会期中無休）

会場 大船渡市立博物館 特別展示室 入場料 ¥300 入場者数 1,264名

企画構成 島田和高（考古部門学芸員）、外山 徹（商品部門学芸員）、忽那敬三（考古部門学芸員）、日比佳代子（刑事部門学芸員）

(2) 趣旨

本展覧会は、大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、大船渡市立博物館の活動支援の一環として開催した。今回の展覧会では、明治大学博物館の考古・刑事・商品の個性的な歴史コレクションをもとに氷河期から昭和時代までの悠久の歴史をたどった。また東北地方にゆかりのある考古・歴史コレクションをあわせて展示した。

(3) 展示構成

展示構成は、旧石器時代（氷河期）からはじまり、縄文時代、弥生時代、古墳時代の各先史時代、そしてそれ以降の歴史時代をへて昭和時代まで、それぞれの時代の概要を解説しつつ、考古・商品・刑事部門の収蔵品のなかから各時代に関係する資料を展示した。夏休み期間中の小中学生を対象として、日本列島の歴史を通史的に俯瞰しながら明治大学コレクションの歴史的な奥深さを体感してもらうことを目的とした。以下に出展資料を記す。

I 氷河期

岩宿遺跡重要文化財レプリカ、北海道置戸安住遺跡出土細石刃石器群、神奈川県月見野遺跡群出土ナイフ形石器群、群馬県武井遺跡出土尖頭器石器群、佐賀県多久三年山尖頭器石器群、茨城県上太田遺跡出土神子柴型石斧、マンモス頭骨レプリカ

II 縄文時代

栃木県篠山貝塚出土縄文土器、青森県雨滝遺跡出土縄文土器・石器・装飾品・呪具、宮城県山王遺跡出土装身具、青森県亀ヶ岡遺跡出土土偶、千葉県江原台遺跡出土亀形土製品、千葉県堀之内貝塚出土土版

III 弥生時代

福岡県板付遺跡出土壺形土器、愛知県西志賀遺跡出土壺形土器、静岡県登呂遺跡出土壺形土器片、京都府深草遺跡出土石包丁・石斧、出土地不明袈裟摺文銅鐸、伝遠賀町出土中細形銅矛、伝大牟田市出土中広形銅戈、茨城県西町古墳出土馬形埴輪、出土地不明農夫埴輪、伝京都府出土舶載三角縁神獸鏡、出土地不明鉄形石・車輪石・石釧、愛知県姫塚古墳出土鉄刀・鏢

IV 飛鳥時代、奈良・平安時代、安土桃山時代

重圈文縁単弁八葉蓮華文軒丸瓦（山田寺）、線鋸齒文珠文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦（藤原宮）、素文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦（飛鳥寺）、線鋸齒文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦（法隆寺）、線鋸齒文珠文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦（平城宮）、文字瓦「国分寺」（下野国分寺）、文字瓦「埼」（武蔵国分寺）、珠文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦（信濃国分寺）、珠文縁複弁八葉蓮華文軒丸瓦（東大寺大仏殿）、五三桐文軒丸瓦（大坂城）、連珠三巴文軒丸瓦・均整唐草文軒平瓦（石垣山城）

V 中世 武士の世の到来

鎌倉幕府が定めた最初の武家法—「御成敗式目」を展示。平安末（12世紀）以降、武士が台頭し、各地で警察、裁判、徴兵、徴税権を握ってゆく。式目はその初期において制限を加えようという趣旨であったが、以降、そうした動向は逆戻りすることなく武士による支配権の掌握は強固になってゆく。

VI 近世 1 江戸幕府の政治

中世的秩序の崩壊した戦国時代を収束させたのが徳川幕府である。諸国の武士を統率した「武家諸法度」、対外政策の基本的スタンスである鎖国とも関わるキリスト教禁令を示す高札、武断から文治への切り替わりと評価される「生類憐み令」、享保期における司法改革の所産「公事方御定書」等、幕府政治の根幹に関わる法制史料を展示。

VI 近世 2 江戸時代の大名

徳川氏の支配体制は、広大な直轄領と大名領で構成される半連合国家の体制（幕藩体制）であった。ここでは、徳川将軍と大名がどのような関係を築いていたか、譜代大名内藤家文書から大名の領地・居城に関わる史料を展示。

VII 近世 3 商業の発展と町人文化

統一政権による政治的安定の下、水陸の交通網が発達し治安も安定すると商業活動が活性化。商人の台頭（株仲間鑑札）、警察制度の整備（十手・手鎖）、町人文化（印籠・根付）、といった世情を象徴的に紹介した。

VIII 近代 明治維新・近代化と対外進出

西南雄藩による倒幕と明治新政府の成立（奥羽鎮撫総督府高札）、西欧に倣った近代化（蒸気機関車錦絵）、対外進出と戦争（三国干渉風刺画、戦時色濃い図柄のカルタ）といった近代日本の歩みを象徴的に提示。

Ⅸ 現代 経済復興と新たな時代の到来

新素材としての化学繊維やプラスチックの普及による大量生産・大量消費社会の到来、家庭用電化製品の急速な進化（初のテンキー付計算機）、マスメディアの影響力（アニメキャラクターのカルタ）、1970年代における日本再発見の潮流の中で伝統文化の復権（南部鉄器・秀衡塗）といった時代の流れを表現。

（4）展示資料概要

①資料数 185点（すべて館蔵資料）

（5）関連イベント

①成人大学講座（明治大学博物館市民レクチャー）

大船渡市の成人大学講座の一環として、会期中2回、明治大学博物館学芸員による講座を開催。

【演題】「東北の大名から江戸時代をみる」

日時：7月31日（木）13:30～15:30

会場：大船渡市民交流館カメラホール

講師：明治大学博物館 刑事部門学芸員 日比佳代子

【演題】「氷河期の日本列島と最古のハンター」

日時：8月21日（木）13:30～15:30

会場：大船渡市民交流館カメラホール

講師：明治大学博物館 考古部門学芸員 島田和高

②夏休み子ども大学「出張！子どもはにわ教室」（明治大学博物館体験教室）

大船渡市立博物館による子ども大学の一環として、明治大学博物館学芸員による体験教室を開催。

日時：8月7日（木）13:30～15:30

会場：大船渡市綾里地区コミュニティ施設・綾姫ホール

内容：明治大学博物館が所蔵する古墳出土のはにわ資料の実物を使い、古墳やはにわの実際をやさしく解説しながら、破片の接合復元などを体験した。



明大博物館クロニクル



明治大学コレクションの世界

3 その他の展覧会

(1) 主催・共催展覧会

①有田焼—商品の伝統・進化・変容

会 期 2014年3月15日～4月27日 44日間
入場者数 2,649名

商品部門の教育研究プロジェクトによる成果報告展。我が国初の磁器産地であり、柿右衛門、鍋島、古伊万里といった伝統様式で知られる伊万里・有田焼について、伝統技法の継承と近代合理化との相克、ライフスタイルや消費性向の変化を反映した新たな商品開発・マーケティングのあり方などを紹介した。



有田焼—商品の伝統・進化・変容

②オーソドックスな古文書展示 続編

※明治大学学芸員養成課程と共催

会 期 6月28日～8月3日 37日間
入場者数 2,688名

博物館刑事部門には、江戸時代を中心とする古文書が約19万点収蔵されている。2013年度の農村に対する基本的な支配関係・村政関係資料の解説につづいて、景観と生活をテーマに、神奈川県津久井地方をフィールドとして村絵図や村明細帳類など生活誌関連史料を展示した。



オーソドックスな古文書展示 続編

③ウイリアム・ガウランドと明治期の古墳研究

※日英共同調査グループ Gowland Project と共催

会 期 9月6日～9月28日 23日間
入場者数 2,420名

当館が収蔵する寄託資料と本学名誉教授の大塚初重氏の過去の調査図面を公開し本学及び当館のガウランド研究への取り組みを示すとともに、近年の日英共同調査により明らかになってきたガウランドの古墳研究と、日本では直接見ることができないため知る機会が少ない大英博物館所蔵コレクションの実像を紹介した。9月20日開催のシンポジウムには137名が参加した。



ウイリアム・ガウランドと明治期の古墳研究

④失われた街が語りかけるもの

～リアス・アーク美術館 東日本大震災と津波の記録～

※明治大学震災復興支援センターと共催

会 期 2015年2月23日～3月26日
入場者数 1,925名

東日本大震災被災地支援の一環として、宮城県気仙沼市のリアス・アーク美術館が所蔵する震災記録写真を展示。同館では、2011年3月11日に発生した震災と津波による被害を地域の重要な歴史・文化的記憶として後世に伝えるため学芸員が中心となって災害被害の実態記録・調査をおこなった。同館の常設展「東日本大震災の記録と津波の災害史」から39点を出展。



失われた街が語りかけるもの

(2)コレクション展

①商品部門

ア 沖縄の伝統と工芸

期間 3月19日～5月21日 64日間

館蔵の沖縄県の伝統的工芸品について漆器、陶磁器、染色品を紹介した。

イ 日田の民窯 小鹿田焼

期間 5月29日～7月28日 61日間

古式の製法を伝承し、柳宗悦ら民藝運動から注目された産地の歴史と製品を紹介。

ウ 四日市萬古焼と紫泥の急須

期間 8月1日～10月16日 69日間

創業の頃からは様々に製法の転変した産地の来歴と合わせて館蔵の急須類を紹介した。

エ 備前焼

期間 10月21日～12月23日 64日間

公開特別講義の実施に合わせて館蔵の備前焼を展示。歴史、製法の特徴、商品開発の変遷を紹介した。

オ 桜井漆器と伊予商人

期間 1月8日～2月22日 46日間

幕府領の年貢積出港設置を契機とする椀船行商の盛行による漆器産地の誕生とその後の転変を紹介。

カ 和紙

期間 2月24日～4月29日 65日間

手漉き和紙のユネスコ世界文化遺産登録に合わせ、館蔵の美濃和紙、石州和紙、小川和紙を紹介。

②刑事部門

ア 錦絵に見る鐵道開通

期間 3月1日～4月12日 43日間

刑事部門所蔵の錦絵の内、明治5年(1872)の横浜～品川～新橋間の鐵道開通に関わるものを紹介。錦絵に記された運賃や「鐵道略則」など、鐵道開通時のエピソードを交えて展示した。

③考古部門

ア 明大コレクション26：中国古代の陶文化

期間 2月1日～5月22日 111日間

新石器時代から漢代にかけての古代中国の土器を展示し、各時代における変遷とその特色を紹介。

イ 明大コレクション27：新島田原遺跡

期間 5月23日～7月30日 69日間

東京都田原遺跡出土の西日本・東日本の土器や神津島産黒曜石を展示し、島嶼部における縄文時代～弥生時代の東西交流の在り方を示した。

ウ 明大コレクション28：徳川家重の一字一石経

期間 7月31日～12月4日 121日間

矢島恭介コレクションの徳川家墓所出土の一字一石経を中心に、前場幸治コレクションのものなど一字一石経の諸例を紹介した。

エ 明大コレクション29：馬渡埴輪製作遺跡

期間 12月5日～3月8日 81日間

遺跡発見50周年を記念し、茨城県ひたちなか市の埴輪生産遺跡出土資料を紹介した。考古学ゼミナールの開催と時期を合わせ、また一部はひたちなか市教育委員会から所蔵資料を借用して展示した。



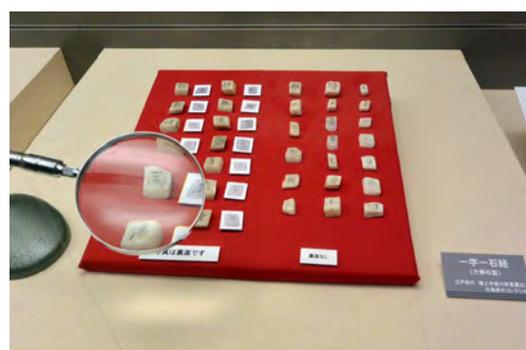
日田の民窯 小鹿田焼



和紙



明大コレクション26：中国古代の陶文化



明大コレクション28：徳川家重の一字一石経

Ⅱ 教育普及活動

1 講座

(1) リバティアカデミー博物館入門講座

①触れて知る古墳時代

| | | | |
|----------------------------------|-------------------------|--------|-----|
| 日時 | 6月6日～6月27日 金曜日 | | |
| 定員 | 15:00～16:30〈全4回〉 定員 35名 | | |
| 会場 | アカデミーコモン 311 教室 | | |
| 講師 | 忽那敬三(学芸員・考古部門担当) | | |
| 受講料 | ¥6,400 | 受講登録者数 | 35名 |
| 《趣旨》 考古資料を観察しながら、古墳時代とは何かを学ぶ。 | | | |
| ①古墳時代の年代と古墳の広がり | | | |
| ②古墳の副葬品と埴輪 | | | |
| ③古墳時代の道具と暮らし | | | |
| ④大陸からの影響と王権 | | | |

②道具からみた弥生時代の暮らしと社会

| | | | |
|--|-------------------------|--------|-----|
| 日時 | 11月14日～12月5日 金曜日 | | |
| 定員 | 15:00～16:30〈全4回〉 定員 30名 | | |
| 会場 | アカデミーコモン 311B 教室 | | |
| 講師 | 忽那敬三(学芸員・考古部門担当) | | |
| 受講料 | ¥6,000 | 受講登録者数 | 29名 |
| 《趣旨》 さまざまな道具の種類や変遷を概観して弥生時代の暮らしと社会を考える。 | | | |
| ①壺・甕・高坏－弥生土器の種類と変遷 | | | |
| ②収穫・加工・戦い－さまざまな弥生時代の石器 | | | |
| ③鋏・鋤・うつわ－弥生時代の木製品 | | | |
| ④銅鐸・鏡・武器－弥生時代の青銅器 | | | |

③気候変動はヒトの社会になにをもたらしたか

| | | | |
|-----------------------------------|-------------------------|--------|-----|
| 日時 | 10月8日～11月5日 水曜日 | | |
| 定員 | 15:00～16:30〈全5回〉 定員 30名 | | |
| 会場 | アカデミーコモン | | |
| 講師 | 島田和高(学芸員・考古部門担当) | | |
| 受講料 | ¥6,000 | 受講登録者数 | 40名 |
| 《趣旨》 過去の気候変動が与えたヒト社会への影響を考えます。 | | | |
| ①過去 10 万年の気候変動 | | | |
| ②IPCC 報告にみる気候変動のインパクト | | | |
| ③現代人の拡散と気候変動 | | | |
| ④氷期から間氷期へ | | | |
| ⑤後氷期の気候変動と古代文明 | | | |

(2) リバティアカデミー博物館公開講座

①明治大学博物館考古学ゼミナール

ア 第 54 回 人と動物のかかわりを探る考古学

| | | | |
|--|--|--------|-----|
| 日時 | 6月27日～7月18日 金曜日 | | |
| 定員 | 18:00～20:00〈全4回〉 定員 100名 | | |
| 講師 | ①西本豊弘(国立歴史民俗博物館名誉教授)、②内山純蔵(総合地球環境学研究所)、③賀来孝代(毛野考古学研究所)、④桃崎祐輔(福岡大学) | | |
| 受講料 | ¥5,000 | 受講登録者数 | 66名 |
| 《趣旨》 イヌ、イノシシ、ブタ、トリ、ウシ、ウマなど家畜に重点をおいて日本史の中で動物が人間のくらしにどのようにかかわっていたのかを考える | | | |
| ①古代における人と動物のかかわり(西本) | | | |
| ②縄文時代のイノシシとシカの利用(内山) | | | |
| ③弥生・古墳時代のトリと人(賀来) | | | |
| ④牧と飼養集団からみた古墳時代の馬と牛の利用(桃崎) | | | |

イ 第 55 回 馬渡埴輪製作遺跡発見 50 周年記念 埴輪の生産と供給をさぐる

| | | | |
|---|--|--------|-----|
| 日時 | 11月14日～12月5日 金曜日 | | |
| 定員 | 18:00～20:00〈全4回〉 定員 100名 | | |
| 講師 | ①鴨志田篤二(元ひたちなか市埋蔵文化財調査センター所長)、②日高慎(東京学芸大学教育学部)、③山崎武(鴻巣市教育委員会)、④森田克行(今城塚古代歴史館) | | |
| 受講料 | ¥5,000 | 受講登録者数 | 47名 |
| 《趣旨》 発見 50 周年を迎えた馬渡遺跡の調査内容の紹介と、関東の埴輪生産と供給、近畿の大王陵の埴輪生産の実像について考える。 | | | |
| ①馬渡埴輪製作遺跡の発見と調査(鴨志田) | | | |
| ②常陸・下総の埴輪生産と供給(日高) | | | |
| ③埼玉県生田塚埴輪窯の埴輪生産と広域供給(山崎) | | | |
| ④大王陵の埴輪生産の姿－新池遺跡と今城塚古墳－(森田) | | | |

(3) リバティアカデミー講座その他(共催含)

①博物館特別展開幕記念講演会

譜代大名とは何か

| | | | |
|--------------------|----------------------|--|--|
| 日時 | 10月10日 金曜日 | | |
| 定員 | 15:00～16:30 受講者 148名 | | |
| 詳細は「Ⅰ展示活動－1 特別展」参照 | | | |

②博物館特別展関連連続講座

藩領と江戸藩邸

～内藤家文書の描く磐城平・延岡・江戸～

| | |
|-------------------|---------------------------|
| 日時 | 10月25日～11月22日 土曜日 |
| 定員 | 13:00～14:30〈全3回〉 受講登録者26名 |
| 詳細は「I展示活動-1特別展」参照 | |

③黒耀石研究センター公開講座

ヒト・道具・社会と気候変動2

| | |
|------|--|
| 日時 | 11月10日～12月15日 月曜日 |
| 定員 | 15:00～16:30〈全4回〉 定員30名 |
| 受講料 | ¥12,500 受講登録者数 60名 |
| 講師 | ①吉田明弘(明治大学P.D)、②島田和高(コーディネーター、考古部門学芸員)、③須藤隆司(明治大学黒耀石研究センター)、④橋詰潤(明治大学黒耀石研究センター)、⑤大工原豊(東京学芸大学) |
| 《趣旨》 | 先史時代のヒト社会における気候変動と資源開発について紹介する。 |
| | ①過去3万年の環境変動と人類活動の繋がり ②採集から採掘へ—先史時代採掘址研究 ③狩猟対象獣の生態と石器研究 ④壊れた石器から太古の狩猟を読み解く ⑤縄文時代の石鏃製作の諸様相 |

(4) 商学研究科と共催の公開特別講義

①商学部・商学研究科連携

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.9

備前焼の次世代構想

—市場動向の変容と新たな商品開発—

| | |
|---|---------------------------------|
| 日時 | 11月14日(金) 10:40～12:10 |
| 会場 | リバティタワー1001教室 |
| 講師 | 山本竜一(協同組合岡山県備前焼陶友会市場開拓特別委員会委員長) |
| パネリスト | 高橋昭夫(商学部教授)・上原義子(商学部兼任講師)他 |
| 進行 | 外山 徹(商品部門担当学芸員) |
| 参加費 | 無料 受講者数 217名 |
| 商学研究科「商品学特論B」、商学部「商品学B」「市場調査論B」の拡大版として実施。市場開拓特別委員会の、一流の工業デザイナーと提携した商品開発によるインテリア・家具業界をターゲットとする販路拡大戦略などが報告され、新たなデザインの導入と伝統的な持ち味の継承とをどう折り合わせるかなど、在学生の代表者も登壇して活発な討論がおこなわれた。 | |



「伝統的工芸品の経営とマーケティング」公開特別講義

2 博物館実習

(1) 館務実習

①商品部門

参加者数 明治大学 28名

《実習内容》

館内施設・設備見学、ワークシート作成実習、収蔵資料整理、特別展受付担当

②刑事部門

参加者数 明治大学 13名

《実習内容》

館内施設・設備見学、収蔵資史料の整理、特別展受付担当他

③考古部門

参加者 明治大学 27名、帝京大学 1名

《実習内容》

収蔵資料整理、坂本万七写真研究所コレクション整理 特別展受付

(2) 見学実習

5月11日 創価大学学芸員課程 3名

8月29日 日本女子大学学芸員課程 6名

9月11日 南山大学学芸員課程 12名

3 在学生対象事業

①学部間共通総合講座

「博物館の現場を実践する」(秋学期開講) 月曜5限

《授業の概要・到達目標》

生涯学習社会にあつて博物館は誰にも平等に保証された教育の機会である。社会生活を営む中でいかに博物館を有効に活用するか? 現代の博物館は、ただ、展示を見学するばかりではなく、友の会やボランティア活動など、利用者がより主体的に活動に関与する機会が開かれそのイメージは大きく変貌しつつある。また、博物館は成人教育の場であるとともに、親子が共

に学べる家庭教育の場としての発展が期待されている。本講座では、明治大学博物館で実際におこなわれている展示活動、調査・研究のケース・スタディ、最先端の施設・設備の実見、収蔵資料の実物の取扱いなどを通してリアリティある実物実見により、博物館とはどのような場所であり、どのような活用の可能性があるのか、理解することを目標とする。

| | テーマ | 担当者 |
|---|-----------------------------|---------------|
| ① | 近代博物館の成立と大学博物館 | 矢島 國雄※ |
| ② | 我が国における大学博物館の現状 | 外山 徹 |
| ③ | 博物館資料の形成1(考古資料) | 島田 和高 |
| ④ | 博物館資料の形成2(刑事関係資料) | 日比 佳代子 |
| ⑤ | 博物館資料の形成3(商品関係資料) | 外山 徹 |
| ⑥ | 博物館資料の取扱い1(考古資料) | 忽那 敬三 |
| ⑦ | 博物館資料の取扱い2(古文書資料) | 日比 佳代子 |
| ⑧ | 博物館資料の研究1(旧石器研究) | 島田 和高 |
| ⑨ | 展覧会の開催(特別展が開幕するまで) | 日比 佳代子 |
| ⑩ | 博物館資料の研究2(銅鐸形土製品への視点) | 忽那 敬三 |
| ⑪ | 博物館の施設・設備 | 島田 和高 |
| ⑫ | 博物館の教育プログラム | 外山 徹 |
| ⑬ | 生涯学習と友の会活動 総括 ふりかえりと意見交換 | 外山 徹 矢島 國雄 |

受講者登録者数 16名

※文学部教授(学芸員養成課程)・博物館協議会委員長・本講座コーディネーター

②国際日本学部文化資源学 夏期集中講義

《授業の概要・目的》

日本文化の源流を過去にさかのぼって考察するための素材である文化財について、博物館が収蔵する資料の取り扱いを中心に学びます。我が国の歴史、伝統的な生活習俗のあり方、今日我々が教科書で学んでいる内容は、一体、どのようなプロセスを経て明らかにされてきたのか? 実習形式を取り入れ、文化財の実物を通じた授業をおこないます。

| | テーマ | 担当 |
|------|------------|--------|
| 8月1日 | 民俗資料・金石文 | 外山 徹 |
| 8月4日 | 考古資料1(旧石器) | 島田 和高 |
| 8月5日 | 考古資料2(埴輪) | 忽那 敬三 |
| 8月6日 | 歴史資料 | 日比 佳代子 |

受講登録者数 2名

4 アウトリーチ活動

- ①出張授業「弥生ムラのタイムカプセル 登呂遺跡」
日時：5月13日(火) 明治大学附属明治中学校2年生
講師：忽那敬三
受講者数：175名

5 社会連携・大学間連携

(1)地域連携

①長野県長和町

長和町(長野県小県郡)と本学は2000年に「黒曜石研究の推進に関する協定書」を締結し、これにもとづく事業に博物館も協力している。協定は、同町所在の鷹山遺跡群の発掘調査にもとづく先史遺跡と黒曜石原産地の公開・活用を目的とする、2000年～2004年には、私学助成による研究プロジェクトにもとづき現地に明治大学黒曜石研究センターが建設された。その後、センターは博物館分館を経て、2010年に本学の研究・知財戦略機構付属研究施設となり独自に調査研究活動を展開している。また博物館は、町民を対象とした「長和町民大学」、周辺市町村と連携した「信州黒曜石フォーラム」の開催などを支援している。

②宮崎県延岡市

ア 延岡市の地域史学習サークル「充真院を学ぶ会」との交流

③福島県いわき市

ア 特別展への「磐城七浜捕鯨絵巻 浜の巻」出展
特別展へはいわき市からも多くの来場者を得た。

④その他

ア 江戸アートエキスポへの協賛

NPO 法人東京中央ネットが主宰する中央区、千代田区他の商店、企業、ホテル、神社仏閣や文化・観光施設、教育機関など既存の建物を「江戸」をテーマとするパビリオン(会場)に見立てたイベントに協賛・参画した。会期：9/26～10/14

- ・関連展示会場(江戸捕者展示)
- ・東京都の児童・生徒による書道展会場
- ・浮世絵スタンプラリー
- ・書道展・ラリー企業賞の提供

(2)大学間連携

南山大学人類学博物館との交流事業

①交換展示の実施

ア 東日本の再葬墓

会期：9月11日(木)～11月8日(土) 入場無料
会場：南山大学人類学博物館常設展示室

イ これがわたしのお気に入り

～タイ北部少数民族の女性の衣服～

会期：9月10日（水）～11月9日（日）
会場：明治大学博物館常設展示室

②一般社会人向けギャラリートーク

ア 名古屋 10月4日（土）13:00～14:00

テーマ 東日本の再葬墓

講師 忽那敬三（明治大学博物館学芸員）

参加者 19名

イ 東京 10月18日（土）11:00～12:00

テーマ これがわたしのお気に入り・タイ北部少数民族の女性の衣服 出品資料とその背景について

講師 西川由佳里（南山大学人類学博物館学芸員）

参加者 21名

③在学生向け特別講義

ア 明治大 12月8日（月）5限（一般にも公開）

テーマ 銅鐸形土製品への視点—モノづくりにおける模倣論の射程

ゲスト講師 黒沢浩（南山大学人文学部教授）

受講生 44名

※学部間共通総合講座として実施

イ 南山大 10月3日（金）2限

テーマ 東日本の再葬墓

講師 忽那敬三

受講生 18名

※人文学部「人類文化学基礎演習 IV」として実施

6 ボランティア受入

(1) 常設展解説ボランティア

①参加者 友の会会員 40名

②研修日程及び内容

| 日程 | 研修種別 | 研修内容 |
|--------------|-------------------------|--|
| 5/21 | 博物館教育 | 展示解説の理念と博物館教育の特性 |
| 5/21 | 商品部門1 商品部門2 | 漆器 器物に漆を塗るという意味は？ 染織品 「～織」「～緋」「～紬」織物 呼称の意味は？ |
| 5/28 | 商品部門3 商品部門4 | 陶磁器 一括りにできない種別と 原材料・工法 竹木工・金工・文具・和紙 |
| 6/4 | 刑事部門1 刑事部門2 刑事部門3 | 歴史的な法の様々／高札 捕者具と江戸時代の警察制度 江戸時代の取り調べと裁判 |
| 6/18 | 刑事部門4 | 仕置と見懲らし・さまざまな刑事博物 |
| 6/25 | 考古部門1 考古部門2 | 日本の旧石器時代 縄文時代の貝塚と生業 |
| 7/2 | 考古部門3 考古部門4 | 稲作の伝来と青銅器のマツリ 東国の古墳文化 |
| 2015 2/25 | 3部門 | フォローアップ研修 避難経路確認 |

(2) 展覧会受付等特別展ボランティア

①特別展示「藩領と江戸藩邸」受付担当（10/11～12/11）
参加者数 友の会 66名、一般1名 計67名

②「失われた街の語りかけるもの」会場案内・監視担当
（2/23～3/26の内月曜）

参加者数 友の会 10名

(3) 図書室ボランティア

①学生ボランティア

新着図書の配架、書架整理等 3名

②友の会会員

受付・入退出対応 32名

7 情報提供

(1) 印刷物

①明治大学博物館広報誌『ミュージアム・アイズ』

A4判 16頁 各5,000部

63号特集 特別展「藩領と江戸藩邸」

64号特集 明治大学博物館の進化形—常設展示室
のリニューアルに向けて—

②特別展「藩領と江戸藩邸」印刷物

ポスター 600枚 チラシ 30,000枚

チケット 16,000枚 図録 1,000部

③『明治大学博物館年報2013年度』 1,100部

④ホームページの公開

⑤その他

・展覧会案内2015年（A4三ツ折） 13,000部

・明治大学博物館10年のあゆみ 5,000部

開館10年をアピールするため、10周年記念事業の一環として、3館時代からの来歴、展示部門、研究活動、展覧会、友の会活動、社会・大学間連携、資料収集、入館記録等のデータ集を編集・発行し学内及び関係官庁・報道機関等に配布した。

(2) 報道機関等による取材

①新聞・雑誌掲載

明治大学博物館 企画展紹介 『日本歴史』2014年5月号 吉川弘文館

明治大学博物館紹介 生活情報誌『モイスティーナ』7月号 ホーマーイオン研究所

明治大学博物館紹介 『螢雪時代』8月号 旺文社

明治大学博物館紹介 『東京ウォーカー』 KADOKAWA

明治大学博物館紹介 「本郷」No.473 東京税理士会本郷支部

明治大学博物館紹介 「明治大学生向け学内施設紹介リーフレット」 M-Navi 学生委員会

明治大学博物館紹介 散歩の達人MOOK『東京さんぽ』交通新聞社

明治大学博物館紹介 「えきぼプラス 元気ラリーキャンペーン in 秋葉原」 チラシ JR 東日本

- 特別展「藩領と江戸藩邸」紹介 『日本歴史』2014 年 10 月号 吉川弘文館
- 明治大学博物館 刑事部門紹介 『週刊 SPA!』10 月 7 日発売号 扶桑社
- 明治大学博物館 刑事部門紹介 『東京トレンドランキング』ぐるなび
- 明治大学博物館紹介 『歩いて楽しむ東京』 JTB パブリッシング
- 明治大学博物館 刑事部門紹介 るるぶ情報版『るるぶ東京を遊ぶ! 600 スポット'15~'16』 JTB パブリッシング
- 特別展「藩領と江戸藩邸」紹介 『歴史読本』2014 年 12 月号 KADOKAWA 中経出版 BC
- 明治大学博物館紹介 『東京散策乗物ガイド 2014-2015』 教材研究所
- 明治大学博物館 刑事部門紹介 「日本経済新聞」朝刊 日本経済新聞社
- 明治大学博物館 刑事部門紹介 大人の遠足 BOOK『東京下町・山手ウォーキング』 JTB パブリッシング
- 公開特別講義「伝統的工芸品の経営とマーケティング」紹介 「陶業時報」 陶業時報社
- 内藤家文書紹介 「宮崎日日新聞」 宮崎日日新聞社 東京支社
- 明治大学博物館紹介 「Ooedo LIVING 都営交通ライフスタイルガイド」No. 24 サンケイリビング新聞社
- 明治大学博物館紹介 「東京リビング」2015 年 3 月 7 日号 サンケイリビング新聞社
- 明治大学博物館紹介 『無料で楽しむ東京フリーガイド』 マイナビ

②テレビ放映

- 明治大学博物館 刑事部門紹介 時代劇専門チャンネル「オニワバン」 日本映画衛星放送
- 明治大学博物館 刑事部門紹介 「検索してはいけない」 TBS
- 明治大学博物館 刑事部門紹介 「先人たちの底力 知恵泉」～大岡越前守忠相の説得力～ NHK E テレ

③ラジオ放送・ウェブサイト・その他

- 明治大学博物館紹介 「大学受験 パスナビ」 旺文社
- 明治大学博物館紹介 じゃらん net 「編集部イチオシの旅」 リクルート
- 明治大学博物館 刑事部門紹介 専門家が教えるあなたの旅先ガイド「たびねす」 ベンチャーリパブリック
- 明治大学博物館紹介 「たばこジャーナル 一服ランチ」 JT クリエイティブサービス
- 明治大学博物館 刑事部門紹介 「Enter Japan」 ヴェインソンジャパン

(3)ミュージアムショップ

①グッズ販売

- ア ミュージアムグッズの見本を展示 受付窓口で販売
- イ 新商品の開発
- ・ Tシャツ 古墳 (考古)
 - ・ メモ帳 土器 (考古)
 - ・ 付箋 特別展「藩領と江戸藩邸」特製 (刑事)

②他館の情報

大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレット・チラシを配布

③来館者の声

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

④友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

⑤博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

8 明治大学博物館友の会

①会員数 478 名

②総会 5 月 10 日 (土)

③講演会

- ア 総会特別講演会「他界創造—古墳にみる形と心—」
5 月 10 日 (土)
古代学研究者・元同志社大学教授 辰巳和弘
- イ 第 1 回古代史講演会「民族誌と理論から探る縄文後・晩期社会」6 月 14 日 (土)
早稲田大学文学学術院教授 高橋龍三郎氏
- ウ 講演会「江戸時代を探訪する PARTⅢ」6 月 25 日 (水)
「江戸天下祭り—神田祭りを中心に一」
武蔵大学人文学部教授 福原敏男
- エ 講演会「安倍晴明と陰陽道・天文道—陰陽師と呪術と星—」9 月 6 日 (土)
大東文化大学東洋研究所兼任研究員 山下克明
- オ 日本考古学 2014 9 月 19 日 (金)
「縄文の塩づくり・その起源と技術」
明治大学文学部教授 阿部芳郎
「平成 25 年度 国史跡 神崎遺跡の発掘調査」
神奈川県綾瀬市生涯教育課 井上洋一
「古墳時代の火砕流で埋もれたムラ—金井東裏遺跡—」
群馬県埋蔵文化財事業団主任調査員 杉山秀宏
- カ 第 2 回古代史講演会「文明に抗した弥生人—石棒

と銅鐸一」10月18日(土)

駒澤大学文学部准教授 寺前直人

キ 第3回古代史講演会「古墳文化の転換期」1月31日(土)

専修大学文学部教授 土生田純之

ク 会員発表会と講演会 2月21日(土)

第一部

「豊川ターレットピット物語」佐々木榮一会員

「銅鐸の分析—金属成分・製造地・発掘状況からの考察」下山繁昭会員

「後藤守一『舟葬論』を考える」細川恵司会員

「保命酒パート2」松本慶三会員

第二部

「村の刑罰」

明治大学博物館学芸員 日比佳代子

ケ 講演会「江戸幕府の服制にみる公家装束—束帯の着装を中心に—」3月14日(土)

お茶の水女子大学非常勤講師 田中潤

④見学会

ア 第15回会員案内による地元見学会「三鷹・調布市を訪ねる～国分寺崖線に沿って武蔵野台地を歩く～」4月22日(火)

案内 木戸孝義会員・村井孝行会員

現地案内 公益財団法人中近東文化センター事務局総務部学芸員 金子直美

現地講師 国際基督教大学湯浅八郎記念館学芸員 福野明子

現地講師 三鷹市遺跡調査会調査員 沼上省一

現地講師 調布市教育委員会教育部郷土博物館事業文化財係主任 立川明子

イ 見学会「江戸時代を探訪するPARTⅢ」6月25日(水)

同行講師 武蔵大学人文学部教授 福原敏男

現地講師 神田神社権禰宜 岸川雅範

ウ 宿泊見学会「奈良県立橿原考古学研究所附属博物館速報展『大和を掘る』見学と遺跡めぐり」

・事前打合せ会 7月12日(土)

・見学会 7月18日(金)～19日(土)

現地講師 奈良県立橿原考古学研究所調査課主任 研究員 鶴見泰寿

現地講師 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館学芸課長 橋本裕行

エ 第16回会員案内による地元見学会「川崎市を訪ねるPARTⅡ—古代の“橘樹(たちばな)の地をゆく—」8月1日(金)

案内 前林芳雄会員

現地講師 川崎市市民ミュージアム学芸員・明大OB 新井悟

現地講師 川崎市教育委員会生涯学習部文化財課担当課長・明大OB 服部隆博

オ 第17回会員案内による地元見学会「上小岩遺跡から柴又へ」—古代「葛飾郡大嶋郷」と近世「佐

倉道」をあるく— 11月5日(水)

案内 蕨由美会員

特別ゲスト 顧問 熊野正也

カ 特別展「藩領と江戸藩邸」関連見学会「延岡藩内藤家の史跡と古墳をめぐる宮崎への旅」

・事前打合せ会 11月26日(水)

・見学会 12月3日(水)～5日(金)

同行講師 明治大学博物館学芸員 日比佳代子

現地講師 延岡市内藤記念館主任学芸員 増田豪

現地講師 高千穂町教育委員会 緒方俊輔

現地講師 宮崎県埋蔵文化財センター副所長 長津宗重

キ 「利根川流域紀行—茨城県南西部地域の史跡と古文書を訪ねる—」3月4日(水)

同行講師 明治大学農学部兼任講師 森朋久

⑤広報活動

ア 会報発行 年4回(春・夏・秋・冬)

イ 行事案内 友の会ホームページでの情報提供随時

ウ 友の会掲示板の活用、行事チラシの作成

⑥博物館への協力

| 担当 | 活動日 | 活動者数 |
|-----------------|--------------|------|
| 博物館図書室管理 | 開室日 | 32名 |
| 展示解説員 | 火・水・木・金 | 40名 |
| 特別展 藩領と江戸藩邸受付業務 | 2014年10月～12月 | 66名 |

⑦学習サークル(活動原則として月1回)

| 分科会名 | 会員数 | 担当者・講師 |
|----------------|-----|--------------|
| 古文書を読む会 | 27名 | 外山学芸員・森朋久氏※1 |
| 平成内藤家文書研究会 | 15名 | 伊能秀明氏※2 |
| 工芸の会 | 22名 | 外山学芸員 |
| 旧石器・縄文文化研究会 | 22名 | 島田学芸員 |
| 弥生文化研究会 | 24名 | 忽那学芸員 |
| 古文書の基礎を学ぶ会 | 30名 | 日比学芸員 |
| 東アジアの中の古代日本研究会 | 30名 | |
| 前方後円墳研究会 | 30名 | 忽那学芸員 |
| 「倭国から大和」を学ぶ会 | 24名 | |
| 古代東北アジアと日本研究会 | 17名 | |

※1 明治大学農学部兼任講師

※2 中央図書館事務長

Ⅲ 研究活動・研究奨励基金

1 調査研究活動

(1) 商品部門

- ①「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会
4/16 10/3 1/16
- ②備前焼都内小売店調査
1/26 夢幻庵銀座店 産地調査打診
調査員：外山
- ③備前焼産地調査
ア 備前焼作家山本竜一氏／倉敷美観地区小売店(8月20・21日)
備前焼の現状と課題、ブランディング、商品開発、人材育成などについて
調査員：外山、上原(研究調査員)
イ 備前焼作家澁田寿昭氏／(株)アートコミュニケーション営業本部長小橋勝氏(備前焼・2015年3月9・10日)
備前焼の現状と課題、ブランディング、商品開発、人材育成などについて
調査員：外山

(2) 刑事部門

- ①特別展関係調査
ア 6月10日～6月11日 磐城七浜捕鯨絵巻・飯野八幡宮史料の調査(日比)於いわき市教育委員会・飯野八幡宮
イ 10月15日～10月16日 内藤藩家老徳鷹家文書の調査(日比)於飯野八幡宮
- ②内藤家文書研究の促進
ア 資料所在調査
・11月11日～12日 内藤藩家老徳鷹家文書の調査(日比)於延岡市内藤記念館
・11月12日～14日 幕末維新时期関係史料の調査(内藤記念館学芸員 大浪和弥)於明治大学博物館
・12月9日～12月12日 芸能・儀礼・藩主関係史料の調査(内藤記念館主任学芸員 増田豪)於明治大学博物館
・3月17日～19日 延岡藩御用商人小田家文書筆写史料の調査(日比)於九州大学附属図書館記録資料館九州文化史資料
- イ 調査成果講演会 共催：博物館友の会
「知られざる花押・印章の世界」
11月13日、大浪和弥(内藤記念館学芸員)

③2014～2017年度「転封大名の新領における「藩」構築過程の研究」科学研究費助成事業若手研究(B)(研究代表者：日比佳代子)による研究活動。

白杵市歴史資料館、九州大学附属図書館記録資料館九州文化史資料、国文学研究資料館で内藤藩領関係の古文書調査を実施、明治大学博物館収蔵内藤家文書の転封関係史料・家臣団関係史料・江戸屋敷関係史料の調査分析を行った。研究成果の一部を特別展「藩領と江戸藩邸」にて発表した(編著『藩領と江戸藩邸』、明治大学博物館、2014年)。

④2014～2017年度「幕末期における大坂・大坂城の軍事的役割と畿内・近国藩」科学研究費助成事業基盤研究(B)(研究代表者：岩城卓二)による研究活動。

日比佳代子が研究分担者として参加。明治大学博物館収蔵内藤家文書の大坂関係史料の調査分析、藩政史料の所在調査、紙焼き作成などをおこなった。研究成果の一部を特別展「藩領と江戸藩邸」にて発表した(同上『藩領と江戸藩邸』)。

(3) 考古部門

①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

2010年度に黒耀石研究センターは博物館から研究・知財戦略機構に移管され、同機構付属研究施設に位置付けられた。新たに設置されたセンター員に島田学芸員が委嘱され、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ヒト-資源環境系の歴史の変遷に基づく先史時代人類誌の構築」(研究期間：2011年度～2015年度、研究代表者：小野昭 研究・知財戦略機構特任教授)の研究分担者となっている。関連する研究活動は以下のとおり。

- ア 4月19日～4月27日：長野県長和町広原遺跡群における遺跡周辺の測量調査を実施
- イ 9月6日：日本第四紀学会柏大会にて口頭発表(東京大学柏キャンパス)
- ウ 9月16日～18日：旧和田村分布調査資料の調査(黒耀石研究センター)
- エ 9月21日：COLS International Obsidian Workshop for Young Scientistsに参加
- オ 1月13日～16日：広原I遺跡出土資料の調査
- カ 日本第四紀学会柏大会セッションIIによる第四紀研究特集号に論文投稿、同特集号の編集。
- キ 長野県広原遺跡群第II遺跡出土資料の整理作業および発掘調査概報の作成(通年)
- ク 2015年3月15日：「ヒト-資源環境系の人類誌」2014年度公開研究集会にて口頭発表(明治大学駿河台キャンパス)

②考古資料のインタラクティブ・コンテンツの制作
2015年度に公開予定のweb page: ICT ミュージアム(仮称)の制作に先立ち、今年度はそのデモ版を制作した。また、考古資料の全方向インタラクティブ・コンテンツ7件を新たに制作した。

③気候寒冷化による先史狩猟採集社会の遊動戦略の変化と人口動態

2014年度に採択された科学研究費助成事業基盤研究(C)(研究代表者:島田和高)による研究活動を実施した。宮城県、山形県、静岡県、長野県の各地及び黒耀石研究センターでの考古資料の調査を実施。研究成果の一部を論文として発表した(島田2015)。

④ウイリアム・ガウランド写真資料(寄託資料)関連資料の調査

造幣博物館、京都国立博物館、飛騨高山まちの博物館、堀田啓一氏宅、大阪府立近つ飛鳥博物館、同志社大学歴史資料館、八尾市埋蔵文化財センター、立正大学、財団法人日本山岳会。科学研究費基盤研究(B)「ゴーランドの古墳研究の総合的検証と古墳文化に対する国際的理解への活用」(研究期間:2012年4月~2016年3月 研究代表者:一瀬和夫 京都橘大学教授)に忽那学芸員が研究分担者として参加。2015年3月16日~18日の日程で大英博物館収蔵のガウランドドキュメント資料の撮影及び内容の調査を実施。

⑤展示方法の視察及び館蔵資料関連遺物の調査
茨城県立歴史館

⑥玉里舟塚古墳埴輪整理作業

茨城県教育委員会・明治大学文学部考古学専攻と共同で報告書作成作業を実施

2 学芸員の研究業績

外山 徹

【著書】

『大学生のための博物館学芸員入門』(技報堂出版、2014年4月) ※執筆分担者

【論文等】

「近世本末下位寺院の所持地形成に関する一考察」(『明治大学博物館研究報告』20、2015年3月)

島田 和高

【論文・著書】

島田和高(2015)「矢出川遺跡再訪-稜柱形細石刃石核と細石刃の形態分析-」『矢出川-日本列島で最初に発見された細石刃石器群の研究-』、信毎書籍出版センター、pp. 313-336.

島田和高・隅田祥光・会田進・橋詰潤・堀恭介・小野昭 2014『広原遺跡群発掘調査概報 II:2013

年度広原遺跡群における考古・古環境調査』明治大学黒耀石研究センター、21p.

【学会発表】

島田和高・橋詰潤・吉田明弘・小野昭「長野県広原遺跡群の発掘調査と中部高地におけるEUP石器群」日本第四紀学会2013年大会、2014年9月6日、東京大学柏キャンパス、口頭

【講習等】

島田和高「後期旧石器時代の中部・関東地方における黒耀石利用と野尻湖遺跡群の形成、石器石材のつどい、2015年2月28日、長野県立歴史館、講師

日比 佳代子

【編著書】

『藩領と江戸藩邸』(明治大学博物館、2014年10月)

※編著

忽那 敬三

【編著書】

『舟塚古墳 埴輪編』(茨城県教育委員会、2015年3月) ※共編著

【論文等】

忽那敬三「資料の借用・貸出し・返却」(『大学生のための博物館学芸員入門』技報堂 2014年4月)

忽那敬三「玉里舟塚古墳の埴輪とその問題」(『茨城県考古学協会誌』第26号 2014年5月)

忽那敬三「〈研究ノート〉ガウランドの登山記録と古墳調査」(『明治大学博物館研究報告』20、2015年3月)

忽那敬三・佐々木憲一「ガウランドが記録した「松代付近」の古墳」(『信濃大室積石塚古墳群の研究IV』2015年3月)

【講演等】

「古墳時代の発掘と成果」(平成26年度明治大学・天童市連携「てんどう笑顔塾」2014年9月)

「ガウランドが残した古墳の写真と記録」(シンポジウム「古墳研究のさきがけ・ガウランドを考える」2014年9月)

「学芸員の仕事とやりがい」(安田学園中学校 2015年1月)

3 刊行物

①『明治大学博物館研究報告』第20号 1,100部
<研究報告>

「近世本末下位寺院の所持地形成に関する一考察」
外山徹

「嘉永期における仙台藩重臣・中嶋恒康の海防政策と砲術攻究—「島崎家文書」・「中嶋家文書」にみる軍制改革の展開—」 竹ヶ原康佑

<研究ノート>

「ガウランドの登山記録と古墳の調査」 忽那敬三

<資料報告>

「明治大学博物館所蔵静岡県原添遺跡出土の弥生土器について」 白石哲也・植田雄己

<公開特別講義抄録>

「備前焼の次世代構想—市場動向の変容と新たな商品開発—」 「伝統的工芸品の経営とマーケティング」 プロジェクト推進部会

②特別展図録

『藩領と江戸藩邸 ～内藤家文書の描く 磐城平・延岡・江戸～』

77 頁 1,000 部

編集：日比佳代子 発行：明治大学博物館

4 大久保忠和考古学振興基金

(1) 募集要項

この基金は、本大学文学部史学地理学科考古学専攻第 41 期卒業生の故大久保忠和氏の遺志を生かすため、ご遺族から寄せられた指定寄付金をもとに設置されました。基金は、考古学および博物館にかかわる、優れた調査・研究を奨励することにより、考古学の振興および博物館の発展に寄与することを目的としています。2014 年度の募集要項は、以下のとおりです。なお、残額がわずかとなり基金の終了が見込まれるため、本基金の奨励研究募集は今回が最後となる予定です。

1. 対象となる研究

考古学および博物館にかかわる調査と研究。

2. 応募資格および条件

本学の考古学専攻在籍者（大学院生に限る）・考古学専攻卒業生・教職員・博物館友の会員および関係者が推薦する者。友の会会員の場合は、入会から 3 年以上を経過した会員を対象とします。なお、本奨励金は、主に科学研究費補助金等の公的助成金に申請資格を有さない研究者の支援を趣旨としています。

3. 奨励金額

- 公募研究 A：個人による調査と研究に対する奨励
- A-1：研究期間 1 年間（交付から 2015 年 3 月まで）
1 件 20 万円以内とします。
 - A-2：研究期間 2 年間（交付から 2016 年 3 月まで）
1 件 40 万円以内とします。
- 公募研究 B：複数の研究者による共同の調査と研究に対する奨励
- B-1：研究期間 2 年間（交付から 2016 年 3 月まで）
1 件 100 万円以内とします。
 - B-2：研究期間 3 年間（交付から 2017 年 3 月まで）
1 件 200 万円以内とします。

4. 審査と交付

本学博物館に設置されている大久保忠和考古学振興基金運営委員会において、研究計画調書の内容にもとづいて厳正に審査・選考した上で、2014 年 5 月下旬までに応募者に採否および奨励金額を通知し、採択者には 6 月上旬までに博物館にて奨励金をお渡しいたします。日時はあらためて通知します。なお、採否の理由についての照会には、一切回答いたしかねますのでご了承下さい。また、本奨励金は個人所得となりますので、所得税源泉徴収後の金額が支給金額となります。

5. 研究成果について

本基金による調査・研究の成果については、下記のように報告・公表することが義務となります。

- (1) 行った研究に関する概要レポート（A4 判で 1 枚程度）を交付から単年度ごと（当該年度の 3 月末日まで）に博物館事務室まで提出して下さい。
- (2) 研究期間の終了後、1 年以内に下記の刊行物等で研究成果を発表して下さい。
 - ①『駿台史学』『明治大学博物館研究報告』等の学内学術刊行物（投稿規程がありますので、事前にご一報ください）
 - ②学外の考古学・博物館学関係の学術雑誌・研究紀要もしくは単行本等

※いずれの場合でも「2013 年度明治大学大久保忠和考古学振興基金」の成果であることを明記して下さい。

※なお、単行本など冊子体での成果報告を行う場合、本基金にもとづく「研究成果刊行助成金」（200 万円以内）を別途設けています。詳細は、下記連絡先までお問い合わせください。
- (3) 掲載誌等（抜刷可）を 2 部提出して下さい。
- (4) 支出した経費内訳一覧とこれに対応する旅費交通費を含む領収書（コピー可）を研究期間終了後 1 ヶ月以内に博物館事務室に提出して下さい。

6. 応募期間

2014 年 2 月 10 日（月）～3 月 19 日（水）必着

7. 申し込み方法

所定の研究計画調書様式に必要事項を記入・押印のうえ、上記期間内に下記あてに郵送していただくか、もしくはご持参下さい。研究計画調書様式は適宜 PC で作成していただいても結構ですが、電子版をご用意の方は、下記 e メールアドレスまでご連絡ください。

なお、ご不明な点は、明治大学博物館 忽那敬三（考古部門担当学芸員）までお問い合わせ下さい。

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
 明治大学博物館大久保忠和考古学振興基金運営委員会事務局宛
 TEL 03-3296-4431, 4448 FAX 03-3296-4365
 e-mail: ma04027@mics.meiji.ac.jp (忽那)

(2) 2014 年度奨励者

①公募研究A (単独)

A-2 (個人研究 研究期間: 2 ヶ年)

須藤隆司「古北海道半島と古本州島東北地域の石刃技術」

土井翔平「古墳出現期の北関東地域における二重口縁壺の成立と展開」

轟直行「菊川式土器の研究—その成立と地域色、そして展開に関する検討—」

藤森英二「胎土中の鉍石分析を利用した中部高地の縄文中期における土偶の研究」

八木勝枝「北上川中流域における後晩期の地域社会～後晩期停滞論の再検討～」

②公募研究B (共同)

B-1 (共同研究 研究期間: 2 ヶ年)

馬場伸一郎・遠藤英子「レプリカ法による植物質食料利用研究を応用した中央高地弥生中期集落研究」

③成果報告等刊行促進費

佐々木憲一「信濃大室積石塚古墳群の研究IV」(博物館収蔵考古資料の調査・研究により生じた成果の報告)

船木義勝「9～11 世紀の土器編年構築と集落遺跡の特質からみた、北東北世界の実態的研究」(研究期間 2011 年度採択B-2 3 ヶ年)

※基金残額がわずかとなったため、奨励研究・刊行促進費とも募集は 2014 年度分で終了

Ⅳ 収蔵資料

(1) 資料収集

①資料数 (部門別)

| | | 刑事 | 考古 | 商品 | 合計 |
|----------------|----|---------|--------|-------|---------|
| 受 入 | 購入 | 16 | 1 | 1 | 18 |
| | 受贈 | 193※ | 4,923 | 2 | 5,119 |
| 合計 | | 209 | 4,924 | 3 | 5,137 |
| 前年度総数 | | 214,819 | 78,733 | 4,755 | 298,307 |
| 今年度総数 | | 215,028 | 83,657 | 4,758 | 303,443 |
| 時田昌瑞ことわざコレクション | | | | | 1,450 |
| 前場幸治瓦コレクション | | | | | 10,725 |
| 総合計 | | | | | 318,782 |

※他に未整理文書 19 箱分あり

《参考》年度別収蔵数 (部門別)

| | 刑事 | | 考古 | | 商品 | |
|------|----|--------|----|-------|----|----|
| | 購入 | 受贈 | 購入 | 受贈 | 購入 | 受贈 |
| 2010 | 13 | 2 | 6 | 10 | 28 | 0 |
| 2011 | 14 | 10,566 | 21 | 1 | 10 | 1 |
| 2012 | 14 | 17 | 7 | 6 | 10 | 3 |
| 2013 | 17 | 97 | 13 | 31 | 2 | 2 |
| 2014 | 16 | 193※ | 1 | 4,923 | 1 | 2 |

※他に未整理文書 19 箱分あり

②購入資料一覧

| 種別・分類 | 資料名 |
|----------------|---|
| 和書・古文書 | 制剛流捕手目録・制剛流人和小具足目録 勝身流柔術初段免状 弾左衛門支配出入御裁許 |
| 錦絵 | 改正撰津大坂図 苧麻一覧、烟草一覧、青花紙一覧、 葛布一覧、製茶一覧、白柿并柿油一覧、 草綿一覧、葛ぜんまい、かたくり製粉一覧、 晝表一覧、蜜蜂一覧、樟虫製法一覧 |
| 考古遺物 レプリカ制作 | 玉里舟塚古墳馬形埴輪 |
| 商品資料 | 備前焼 備煎シリーズ 「イルカ」 |

③受贈資料

| 部門 | 資料名 |
|----|---|
| 刑事 | 伊藤博文公修正憲法稿本 内藤家印章 41 点 まろほし (模作) 内藤家文書近代史料 19 箱 2013 年度寄託内藤家文書近代史料 149 点 変態刑罰史 |

| | |
|----|---|
| 考古 | 埼玉県所沢市・狭山市・三芳町・富士見町採 集石器一式 敦煌榆林窟第三窟五十一面千手観音壁画模写 須恵器 (高坏・平瓶・壺、山村宏氏採集) |
| 商品 | 伊勢形紙 (額装・伊勢新聞創刊 100 年記念品) 紫地絹総鹿の子絞り振袖 |

④寄託資料

ア 『刑罪大秘録』他 3 点

受託期間 2012 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

イ 故里見庫男氏所蔵文書 (3373 点)

受託期間 2013 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体 (いわき地域史学会) 及び大学院文学研究科日本史専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた史料群。

⑤資料修復

内藤家文書「定江戸分限帳」1 件

(2) 資料整理

①商品部門

ア 収蔵資料所在調査・再配架

- ・陶磁器
- ・旧 14 号館収蔵資料

②刑事部門

ア 内藤家文書 (近代史料、政道氏寄贈、近代寄贈) の整理

イ マイクロフィルム等 2 次資料整理

ウ 内藤家印章 (寄贈) の保存容器作成

エ 1987～2003 年収集資料検索用目録作成

③考古部門

ア 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備

イ 茨城県舟塚古墳出土埴輪資料の整理

ウ ガラス乾板の保存処置

エ 収蔵資料の所在確認

オ 前場幸治瓦コレクションの整理 (明治大学古代学研究所と共同作業)

カ 矢島恭介資料の整理 (点数・内容確認)

(3) 資料記録

①撮影

ア 商品部門 該当なし

- ・内藤家文書大型絵図 7 点

- ・映像コンテンツ用絵図撮影 1 点

イ 考古部門

- ・コンテンツ用立体撮影 7 点

②デジタル化

ア 考古部門

収蔵資料の360°インタラクティブデジタルコンテンツの制作。コンテンツはiOS appとして制作しており、2014年度までコンテンツ数を順次増やし、2015年度にiTunes Uより公開する予定である。

(4) 資料利用

①資料貸出・掲載・撮影件数

| | 刑事 | 考古 | 商品 | 合計 |
|--------------|----------------|---------------|----------|--------|
| 一次資料 出品数 | 10点 | 840点 | — | 850点 |
| レプリカ等 出品数 | 0点 | 12点 | — | 12点 |
| 撮影 | 1,124点 | 60点 | — | 1,184点 |
| 掲載等 | 311点 | 263点 | 2点 | 576点 |
| 合計 | 169件 1,445点 | 83件 1,175点 | 2件 2点 | — |

《参考》年度別資料利用数推移

| | 出展数(レプリカ内数) | 撮影 | 掲載 |
|------|-------------|-------|-----|
| 2010 | 910(61) | 1,146 | 605 |
| 2011 | 608 | 1,438 | 741 |
| 2012 | 1,185(20) | 1,949 | 704 |
| 2013 | 701(8) | 1,123 | 582 |
| 2014 | 862(12) | 1,184 | 576 |

②収蔵資料閲覧

| 調査閲覧 | 刑事部門 | | 考古部門 |
|------|--------|--------|------|
| | 古文書 | マイクロ | |
| | 4,488点 | 214リール | 50件 |
| 人数 | 165名 | | |

《参考》年度別資料閲覧数推移

| | 刑事 | | | 考古 件数 |
|------|--------|---------|-----|----------|
| | 古文書(点) | マイクロ(本) | 人数 | |
| 2010 | 2,243 | 3 | 121 | 63 |
| 2011 | 3,653 | 20 | 132 | 72 |
| 2012 | 6,398 | 33 | 116 | 77 |
| 2013 | 3,858 | 137 | 182 | 66 |
| 2014 | 4,488 | 214 | 165 | 50 |

③貸出先・展覧会・出展資料一覧

ア 刑事部門

(ア) 國學院大學博物館

企画展「起請文と牛玉宝印」

期間：2014年3月15日～5月18日

内藤家文書 3-2-107 「神文前書」 計1点

(イ) 延岡市 内藤記念館

「オモテとウラ —内藤家旧蔵の能面—」展

展示期間：2014年9月13日～10月13日

内藤家文書 1-28-22 「祭礼並祈禱代参諸遷宮神事能取嚙」 他 計7点

(ウ) 明治大学中央図書館

企画展示「江戸の駿河台界限—御茶ノ水ゆかりの人々—」

会期：2014年10月4日～11月1日

中坊家文書 「中坊陽之助(寂定院)肖像」(軸装1巻) 計1点

(エ) 世田谷区立郷土資料館

季節展「ボロ市の歴史」

展示期間：2014年12月15日～2015年1月16日

名和コレクション 伝・世田谷代官大場彌十郎の十手 計1点

イ 考古部門

(ア) 港区教育委員会

港区立港郷土資料館 常設展示

借用期間：2014年4月1日～2015年3月31日

東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計109点

(イ) 市立市川考古博物館

市立市川考古博物館 常設展示

期間：2014年4月1日～2015年3月31日

佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他 計80点

(ウ) 東京国立博物館

東京国立博物館へ継続出品

期間：2014年7月1日～2017年6月30日

重要文化財 神奈川県夏島貝塚出土深鉢形土器 1点

(エ) 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室(「岩宿時代のムラと社会」・

「岩宿文化の地域性」のコーナーに展示)

借用期間：2014年7月1日～2015年6月30日

群馬県武井遺跡出土石器 他 計330点

(オ) 岩宿博物館

岩宿博物館2階常設展示室に展示

展示期間：2014年7月8日～12月14日

重要文化財 群馬県岩宿遺跡出土品 計39点

(カ) 山梨県立考古博物館

第32回特別展「掘り起こされた音の形—まつりと音具の世界—」

会期：2014年10月8日～11月24日

千葉県江原台遺跡出土亀形土製品 計6点

(キ) 岩宿博物館

第58回企画展「石器が語る時代の変化」

会期：2014年10月4日～11月24日

重要文化財 埼玉県砂川遺跡出土石器 計10点

(ク) 小田原市経済部観光課

小田原城天守閣特別展「いにしへの小田原～遺跡から見た東西文化の交流～」

会期：2014年10月18日～12月14日

前場幸治コレクション 千代廃寺「大伴五十戸」銘重圈文縁細弁十六葉蓮華文軒丸瓦 計1点

- (ケ) 秋田県立博物館
企画展「石斧のある世界」
展示期間：2015年4月25日～6月21日
インドマドラス出土ハンドアックス 計1点
- (コ) 市立市川考古博物館
常設展示
展示期間：2015年4月1日～2016年3月31日
佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他 計80点
- (サ) 岩手県立博物館
岩手県立博物館常設展示
借受期間：2015年4月1日～2016年3月31日
岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点
- (シ) 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室(テーマ名 日本文化のあけぼの)
期間：2015年4月1日～2016年3月31日
佐賀県茶園原遺跡出土品 計10点
- (ス) 港区教育委員会
港区立港郷土資料館 常設展示
借用期間：2015年4月1日～2016年3月31日
東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計109点
- ※2014年度中に手続きが終了したものを掲載
- ④資料利用一覧
ア 刑事部門
(ア) 静岡県立中央図書館
静岡県立中央図書館歴史文化情報センター内およびインターネット上での公開・利用
編年雑記 二 他 計41点
(イ) 慶應義塾志木高等学校
授業での講読用資料として利用
今川仮名目録 計28カット
(ウ) 明治大学リバティアカデミー事務局
リバティアカデミー2014秋季特別企画講座「明治大学・宮崎県連携講座 神話の源流「みやざき」第3講「日向神話」で使用
内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-3 延岡御城附絵図 計1点
(エ) 京都府立総合資料館
写真版の公開と利用
京北野新地文書 他 計27点
- イ 考古部門
福島県立博物館
福島県出土縄文時代製塩土器の研究のため(2013年度明治大学大久保忠和考古学振興基金採択研究「縄文期製塩土器の製作痕跡属性の共有化に向けた資料提示方法の再検討」として実施)
福島県成田(藤堂塚)遺跡出土製塩土器片(口縁部44点・底部6点) 計50点

- ⑤掲載一覧
ア 刑事部門
『徳川幕府刑事図譜』遠島出船の図 『隔週刊 剣客商売 DVD コレクション』17号 デアゴスティニー・ジャパン
『徳川幕府刑事図譜』旧江戸伝馬町牢獄門前の景 他 谷川彰英『別冊宝島 地名と地理の謎がわかる!東京の歴史地図帳』宝島社
『徳川幕府刑事図譜』強盗配分の図 他 洋泉社 MOOK 『実録 鬼平と江戸捕物帳』洋泉社
内藤家文書 2-10-12 狐憤(写)他 ホームページ「幕末の延岡藩」
鑑札 株仲間札 『歴史人』2014年6月号「相澤理の東大の日本史」ベストセラーズ
武家諸法度 「歴史発見 城下町へ行こう!」(和歌山編) サンテレビ
往古うはなり打の図 「タイムスクープハンター 修羅場! 決戦の妻たち」ネットワーク配信
『明治初期東京拾五景』の内「雲州松平家上屋敷」(刑事部門所蔵 1996-006) 「高尾山歴史の散歩道26 護摩札の配札4」(『高尾山報』604号、大本山高尾山薬王院)
東京第一大学区開成学校開成式之図 『Ace 建設業界』5月号 日本建設業連合会
刑事部門常設展示室風景 江東区人権学習講座チラシ・報告書・「江東区報」・江東区ホームページ
『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(十手の使用法) 「時代劇ニュース オニワバン!」時代劇専門チャンネル
今川仮名目録 静岡市文化財課ホームページ
地方測量之図 「クイズプレゼンバラエティー Qさま!!!」テレビ朝日
『徳川幕府刑事図譜』斬罪仕置の図 他 『大江戸捕物帳』英和出版社
『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 他 「謎解き!江戸のススメ」#113『徳川吉宗と大岡越前』BS-TBS
『徳川幕府刑事図譜』牢獄の略図 他 「謎解き!江戸のススメ」#112『江戸の三大仇討ち』BS-TBS
『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 他 『古地図で巡る江戸の怪談 不思議さんぽ帖』双葉社
地方測量之図 『小学校社会科テスト2学期6年』評価問題研究所
地方測量之図 『観点別社会科テスト2学期6年』評価問題研究所
仮名目録追加 「英雄たちの選択 桶狭間の戦い 信長を天才にした逆境」NHK BSプレミアム
『徳川幕府刑事図譜』切腹の図 他 『歴史人』2014年7月号「大江戸武士の暮らし図鑑」ベストセラーズ
鑑札 株仲間札 ビジュアル版日本史図録編集委員会『ビジュアル版 日本史図録』山川出版社
内藤家文書 1-31-91 明治期「古社取調書」他 『宮崎公立大学創立20周年記念論文集』宮崎公立大学

- 『徳川幕府刑事図譜』旧江戸伝馬町牢獄内 昼の図
『古地図で巡る江戸の怪談 不思議さんぽ帖』 双葉社
- 水戸藩小石川御屋敷御庭之図 小野健吉「『江戸図屏風』から読み解く寛永期の江戸の庭園」(『日本研究』第50集、国際日本文化研究センター)
- 口上之覚 生類憐み令 週刊『歴史ドキュメント 刻一刻』4号～忠臣蔵 前編～ デアゴスティーニ・ジャパン
- 今川仮名目録 週刊『歴史ドキュメント 刻一刻』5号～桶狭間の戦い～ デアゴスティーニ・ジャパン
- 『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り) 他「謎解き!江戸のススメ」#117『与力と同心』BS-TBS
- 『牢内深秘録』西大牢の牢内役人 他 南谷果林『地図と写真から見える!江戸・東京 歴史を愉しむ!』 西東社
- 明治大学博物館常設展示室 刑事部門展示資料 火罪木 他 落田将平「日本近世後期の社会と刑罰(仮)」(高崎経済大学卒業論文)
- 『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 『超ビジュアル!日本の歴史人物大事典』 西東社
- 今川仮名目録 小和田哲男『駿河今川氏十代一戦国大名への発展の軌跡一』 戎光祥出版
- 出羽国村山郡山口村文書 Y20 乍恐以書付奉願上候扣(東根附村々所領替二付、郡中非常備金積金下渡願) 尾崎真理 近世史サマーセミナー分科会研究報告レジュメ「近世後期、畿内近国幕領における郡中備銀の成立と展開」
- 高札 太政官札 キリシタン禁制(慶応4年) 2014年度後期(高3・高卒生対象)『日本史写真資料集』河合塾
- 内藤家文書 1-21-360 相良民部様御支配百姓騒動一件(宝暦九年御代官甲斐十太夫様御支配宮崎穂北郡百姓高鍋領江立退候一件)『西都市史 資料編』西都市
- 『徳川幕府刑事図譜』切腹の図 他 山本博文『知識ゼロからの忠臣蔵入門』 幻冬舎
- 『徳川幕府刑事図譜』火刑の図 「謎解き!江戸のススメ」#125『江戸の寺社～東照宮と泉岳寺』 BS-TBS
- 内藤家文書 「徳川秀忠黒印状」(慶長19年9月13日付) 館山市教育委員会 歴史副読本『さとみ物語』 館山市
- 伊勢国度会郡田曾浦文書 27-書冊-T-6 郷組之一札 鈴木かほる『史料が語る 向井水軍とその周辺』新潮社 図書編集室
- 地方測量之図 「小学校学習者用デジタル教材(教科書AR型)の開発研究・試作アプリ」 東京書籍
- 高札 太政官札 キリシタン禁制(慶応4年) 文部科学省検定済教科書『日本史 A』デジタル版 山川出版社
- 相模国足柄上郡千津嶋村文書 12-書状-C-63 (質地 売渡覚) 荒木仁朗「日本近世農村における債務と証書類」(『歴史評論』773号、歴史科学協議会)
- 名和コレクション 御用提灯 南町奉行所 他 洋泉社 MOOK『歴史 REAL 特大号 江戸大図鑑』 洋泉社
- 水戸藩小石川御屋敷御庭之図 『緑と水のひろば』77号 東京都公園協会
- 地方測量之図 DVD 教材「人物で学ぶ小学校歴史 映像クリップ集」 NHK エンタープライズ
- 大木喬任文書 「幸せ!ボンビーガール」 日本テレビ
- 内藤家文書 3-2-61「神文前書」 他 大河内千恵『近世起請文の研究』(図書館用電子書籍) 吉川弘文館
- 内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 延岡城の現在の状況と有馬時代の状況を比較するCG(城山公園航空画像システム)を作成し、延岡市公式ホームページや市民フォーラム、城山公園航空画像システム作成業務委託報告書で利用
- 地方測量之図 月刊『男の隠れ家』2014年12月号 三栄書房
- 『徳川幕府刑事図譜』斬罪仕置の図 他 映画「NINJA THE MONSTER」 松竹
- 公事方御定書 他 「NHK 高校講座 日本史 『幕政改革』」 NHK Eテレ
- 『徳川幕府刑事図譜』拷問の図(答打) 他 「先人たちの底力 知恵泉」～長谷川平蔵宣以 “人を動かす極意”～ NHK Eテレ
- 内藤家文書 3-23-11-35-5 延岡城下家中屋敷割図 他 「夕刊デイリー」 夕刊デイリー新聞社
- 生麦発殺之図 『歴史人』2014年12月号「154年目の真実 幕末維新の騒乱と戦争」 ベストセラーズ
- 往古うはなり打の図 清水克行・須田努『現代を生きる日本史』 岩波書店
- 鑑札 株仲間札 「NHK 高校講座 日本史 『幕藩体制の危機』」 NHK Eテレ
- 『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(打込み・寄棒・鉤縄の使用法) 他 『FLASH』 光文社
- 『徳川幕府刑事図譜』拷問の図(釣責) 他 「ワケあり!レッドゾーン」 読売テレビ
- 地方測量之図 「クイズプレゼンバラエティー Qさま!!」(再放送) テレビ朝日
- 地方測量之図 月刊『男の隠れ家』2014年12月号(電子版) 三栄書房
- 『徳川幕府刑事図譜』拷問の図(答打) 他 「先人たちの底力 知恵泉」～長谷川平蔵宣以 “人を動かす極意”～(再放送) NHK Eテレ
- ニュルンベルクの鉄の処女 三浦基弘・小林公『発明とアイデアの文化誌』 東京堂出版
- 中坊家文書 2-6-17 先祖書 樋口雄彦「開成所画学局の絵師 伊藤林洞」(『沼津市博物館紀要』39、沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館)
- 会津若松戦争之図 「ニッポン 絶景街道～会津街道

なぜ会津藩は徳川家に愛された？」 BS 朝日
 『徳川幕府刑事図譜』引廻しの図 他 「謎解き！江戸
 のススメ」#141 『庶民の警察～年末大捜査網』
 BS-TBS
 地方測量之図 2015 年度版『社会 4 年デイリーサピク
 クス 440-08』 日本入試センター
 生麦発殺之図 「真説！吉田松陰と幕末の志士列伝
 86」 (『歴史人』2015 年 2 月号、ベストセラーズ)
 6-B-49 明治10 (1877) 年6月 西南戦争の投降勧告ビラ
 『熊本県 地域の歴史を調べよう』 浜島書店
 内藤家文書 1-7-148 安政七年 万覚帳 他 伊能
 秀明 資料紹介「内藤家文書に見る「桜田門外ノ変」
 異聞」(明治大学図書館紀要『図書の譜』第 19 号、
 明治大学図書館)
 『刑罪大秘録』 引廻行列 DVD 人権アーカイブ・シ
 リーズ「同和問題～過去からの証言、未来への提言
 ～」「同和問題～未来に向けて～」 法務省・人権
 教育啓発推進センター・東映
 6-C-21 虎狼刺予防絵説 公開講座「明治時代の感染
 症パニックー見えない敵とどう闘ってきたのか？」
 広報用チラシ・ポスター 東北文化研究センター
 仮名目録追加 『戦国武将たち どん底からの再生』
 メディアックス
 内藤家文書「五十三次ねむりの合いの手」 他 「日
 向国延岡藩内藤充真院の大坂寺社参詣」(『城西人文
 研究』第 32 巻、城西大学経済学会)
 今川仮名目録 他 『別冊歴史人 戦国武将の全国勢
 力変遷地図』 ベストセラーズ
 児島藩内海干拓関係文書 13-1 児島内海文化話 表
 紙 他 北村章「文化期児島内海争論をめぐる資料に
 ついて一大崎・三宅家資料を中心に」(『岡山県立
 記録資料館 紀要』第 10 号、岡山県立記録資料館)
 『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(打込み・寄棒・鉤縄
 の使用法) 他 「謎解き！江戸のススメ」#145 『長
 谷川平蔵の真実～鬼平の素顔』 BS-TBS
 錦絵 大岡政談天一坊実記 他 「大江戸八百八町の事
 件帳」(『歴史人』2015 年 3 月号、ベストセラーズ)
 伏見関門口豊後橋進撃之図(慶応 4 年正月)『新長崎
 市史 普及版』 長崎市／長崎新聞社
 今川仮名目録 『角川まんが学習シリーズ 日本の歴
 史』第 7 巻(紙本書籍／電子書籍) KADOKAWA
 御触書(高札-0014)「歴史秘話ヒストリア 新常識！
 歴史 NEWS～日本史を変える10の発見～」NHK 総合
 御触書(高札-0014)「歴史秘話ヒストリア 大発見！
 歌麿の最高傑作 巨大美人画に秘められた真実」
 NHK オンデマンド
 三河国岡崎藩(本多氏)士太地家文書 48-書状-250
 達 家中女奉公人給金二付 他 愛知県史編さん
 委員会『愛知県史 資料編 22 近世 8 領主 2』
 『徳川幕府刑事図譜』斬罪仕置の図 『大江戸捜査網
 DVD コレクション』第 34 号 朝日新聞出版
 地方測量之図 国立科学博物館常設展示 展示解説

パネル及び映像にて使用
 地方測量之図 NHK デジタル教材「NHK for school」
 名和コレクション 鎖鎌(石見守直次作)ネットミュ
 ージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵 力と美」
 今川仮名目録 月刊誌『歴史街道』2015 年 4 月号 PHP
 研究所
 内藤家文書 1-20-322 享保十三年日光御社参関係
 書類(9) 日光御社参御留守中火之御番被仰付候節
 之一件 古文書講座で講読テキストとして使用
 相模国津久井県上長竹村本多家文書 天明 7 年 小前
 請印帳 他 相模原市立博物館編『津久井町史 通
 史編 近世・近代・現代』 相模原市
 水戸藩小石川御屋敷御庭之図 虹設計事務所『(案)
 小石川後楽園保存管理計画(改訂)』 東京都建設
 局公園緑地部
 陸奥国仙台藩(伊達氏)文書 48-乙-214 天保十二
 年七月小御記録 他 2011(平成 23)年度～2014
 (平成 26)年度科学研究費補助金基盤研究(C)「近
 世武家女性のライフサイクルと奥奉公に関する基
 盤的研究」報告書
 往古うはなり打の図 「タイムスクープハンター 修
 羅場！決戦の妻たち」ネットワーク配信
 往古うはなり打の図 「必殺仕事人 2015」 朝日放送
 /テレビ朝日
 『徳川幕府刑事図譜』旧江戸伝馬町牢獄内 昼の図 他
 「松本清張ミステリー時代劇を 100%楽しむための
 公式ガイドブック」 BS ジャパン
 内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬
 家中延岡城下屋敷並絵図 延岡城の現在の状況と
 有馬時代の状況を比較する CG を延岡市公式ホーム
 ページや市民フォーラム等で利用
 地方測量之図 『社会科資料集 6 年』『社会科資料集 6
 年 教師用付録デジタル版(DVD-ROM)』 日本標準
 板倉家文書 「亀山市史」ウェブ版 亀山市
 地方測量之図 平成 27 年度指導者用「小学校社会 デ
 ジタル掛図」 東京書籍
 地方測量之図 平成 27 年度指導者用「デジタル教科
 書 新編新しい社会」 東京書籍
 今川仮名目録 「歴史秘話ヒストリア 今川義元
 (仮)」 NHK
 イ 考古部門
 群馬県岩宿遺跡出土刃部磨製石斧 他 『エブリスタデ
 ィアドバンスト小 5』スタンダード 6 月号／『エブリ
 スタディアドバンスト小 5』ハイレベル 6 月号 Z 会
 群馬県岩櫃山鷹ノ巣岩陰遺跡出土丸子式土器 轟直
 行『岩櫃山鷹ノ巣岩陰遺跡で採集された丸子式土器
 の破片』 明治大学文学部考古学研究室
 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 他 2014 年度『第
 1 回全統マーク模試』地理歴史「日本史 B」河合塾
 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『早稲田スクール
 が教える熊本の高校入試』 学研教育出版

- 広島県帝釈寄倉岩陰遺跡 再葬人骨出土状況 お墓ディレクター検定用テキスト『お墓の教科書』 日本石材産業協会
- 千葉県天神前遺跡出土壺形土器・人骨 設楽博己 <日本歴史 私の最新講義>シリーズ『縄文社会と弥生社会』 敬文舎
- 群馬県岩宿遺跡の予備調査の様子 他 松藤和人『日本列島人類史の起源―「旧石器の狩人」たちの挑戦と葛藤―』 雄山閣
- 群馬県岩宿遺跡予備調査における石斧の出土状況 他 平成26年度特別展「二上山と岩宿―関西と北関東の旧石器文化―」展示図録および写真パネル 香芝市二上山博物館
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成26年度 進研ゼミ難関私立中高一貫講座『中1Challenge 英数国理社8月号』 ベネッセコーポレーション
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 武藤康弘監修『はじめての土偶』 世界文化社
- 群馬県岩宿遺跡発掘調査風景 他 桐生タイムス連載企画第3回「岩宿遺跡の発見」 桐生タイムス社
- 茨城県三味塚古墳出土鎧・兜 『大人の探検 古墳』 実業之日本社
- 北海道白滝服部台遺跡出土細石器 他 『別冊宝島 日本の武芸と武器』 宝島社
- 「岩櫃山に立つ杉原荘介」写真 企画展示「弥生ってなに?!」展示図録・展示パネル 国立歴史民俗博物館
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 『8月ゼミ 小6社会』 塾用プリント ティエラコム
- 茨城県法堂遺跡特殊遺構 川又清明「霞ヶ浦周辺の塩生産」(『季刊考古学』128号「特集：水産資源と歴史考古学」、雄山閣)
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『?に答える小学社会』 学研教育出版
- 岩手県雨滝遺跡出土石匙 『2015 パックV 日本史B』 問題集 駿台文庫
- 第13回日本考古学協会総会写真資料 平成26年度登呂博物館企画展「きっかけは登呂遺跡」(展示資料)
- 長野県大室224号墳出土鉄鏃 平林大樹「信濃における後期・終末期古墳副葬鏃の生産と流通」(『信濃』66巻9号、信濃史学会)
- 栃木県出流原遺跡第11号墓坑 顔面付土器 安蘇史談会会報『史談』第31号 安蘇史談会
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 他 平成27年度 進研ゼミ中学講座/難関私立中高一貫講座 中1・中2 チャレンジ社会 ベネッセコーポレーション
- 茨城県玉里舟塚古墳出土家形埴輪1 他 第28回秋季特別展『しもつけの“埴輪群像”』図録および展示パネル 栃木県教育委員会・栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
- 大阪府太田茶臼山古墳正面 他 『新修茨木市史 第七巻 史料編 考古』 茨木市
- 岩宿博物館常設展示「岩宿1石器文化の石器」 文部科学省26年度地域志向教育研究費の県市町村連観光街づくり「ARブックレット」の実証実験で使用
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『チェック&演習 日本史B』 数研出版
- 出土地不明 勾玉 小学校社会科教材「ビジュアルワイド社会科資料集6年」 東京書籍
- 前場幸治コレクション 板碑 水本和美「千代田区関連板碑の調査の概要(仮)」(千代田区立日比谷図書館文化館文化財事務室『文化財年報』第2号)
- 茨城県法堂遺跡の特殊遺構と製塩土器出土状況 『月刊 考古学ジャーナル』2014年11月号 ニューサイエンス社
- 神奈川県夏島貝塚出土土器 他 阿部芳郎「縄文の資源利用と社会」(『別冊 季刊考古学』21号、雄山閣)
- 福岡県板付遺跡出土遺物 他 遠藤英子「栽培穀物からみた、日本列島における農耕開始期の様相」
- 愛知県五貫森遺跡出土磨製石器 「スマイルゼミ 中学コース」中学生1年向通信教育教材 ジャストシステム
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成27年度 進研ゼミ中学講座『中1 定期テスト暗記BOOK』/『中2 定期テスト暗記BOOK』 ベネッセコーポレーション
- 愛知県五貫森貝塚出土打製石器 他 『Ⅱ期ゼミ 中1社会』塾用問題集 ティエラコム
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成26年度 進研ゼミ難関私立中高一貫講座『中1Challenge3月号開講号』 ベネッセコーポレーション
- 京都府深草遺跡出土石包丁 2014年度冬期・直前講習(高3・高卒生対象)『センター試験本番必勝テスト 日本史B』 河合塾
- 群馬県岩宿遺跡関連写真 他 小菅将夫 シリーズ「遺跡を学ぶ」100『岩宿遺跡』 新泉社
- 埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『3年間の総仕上げ問題集 社会』 文理
- 栃木県篠山貝塚出土縄文土器 『Ⅲ期ゼミ 小6社会 理科合本』塾用問題集 ティエラコム
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『Ⅲ期ゼミ 中1社会』塾用問題集 ティエラコム
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 2014年度直前講習(高3・高卒生対象)『愛大日本史テスト』河合塾
- 神奈川県夏島貝塚出土骨角製釣針 『中学社会 歴史未来をひらく』(通常版・拡大版) 教育出版
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成27年度 進研ゼミ中学講座『中2 5教科パーフェクト事典』 ベネッセコーポレーション
- 栃木県出流原遺跡出土顔面付土器 『栃木県 地域の歴史を調べよう』 浜島書店
- 群馬県岩宿遺跡第1回本調査での計測の様子 他 大塚初重『歴史を塗り替えた日本列島発掘史』 KADOKAWA 中経出版 BC
- 神奈川県田名向原住居状遺構の柱穴・炉址・石器の分

布図 (2008 年度明治大学博物館特別展解説図録『氷河時代の山をひらき、海をわたる—日本列島のパイオニア期—』) 八王子市市史編集委員会『新八王子市史』 通史編 1 原始・古代 八王子市

福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成27年度 進研ゼミ難問私立中高一貫講座『定期テスト予想問題集 社会【歴史編】』/平成27年度 進研ゼミ難問私立中高一貫講座『定期テスト予想問題集 社会【地歴並行編】』 ベネッセコーポレーション

前場幸治コレクション 千代廃寺「大伴五十戸」銘重圏文縁細弁十六葉蓮華文軒丸瓦 他 田尾誠敏、荒木志伸、大上周三、大村浩司、荒井秀規、宇都洋平『大地に刻まれた藤沢の歴史V～古代～』 藤沢市

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 テーマ展「縄文の不思議な世界」説明パネル 埼玉県立さきたま史跡の博物館

神奈川県夏島貝塚出土尖底深鉢土器 他 『クローズアップ日本の歴史』 第一巻 ポプラ社

福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成27年度 進研ゼミ中学講座『入試によく出る基礎 社会』 ベネッセコーポレーション

群馬県岩宿遺跡出土石器 宮沢賢治記念館グラフィック展示

千葉県能満寺古墳出土遺物写真 能満寺古墳 (千葉県長生郡長南町芝原 3829) に設置予定の標識に使用

千葉県天神前遺跡第 1 号墓坑出土の壺形土器・人骨 他 松戸市教育委員会『松戸市史 上巻 原始・古代・中世』 松戸市

群馬県岩宿遺跡発掘調査写真 岩宿博物館ミュージアムショップ販売用缶バッジの図柄として利用

大阪府塚原古墳群 内部写真 原邦三「ガウランドの古墳研究シンポジウムを聴く」(日本山岳会会報『山』平成 27 年 2 月号 (837 号)、日本山岳会)

京都府深草遺跡出土石包丁 『I 期ゼミ中 1 社会』 塾用問題集 ティエラコム

群馬県岩宿遺跡調査写真 最初の発掘調査 (1949 年 9 月 11 日) 他 「くらし◇解説」 NHK

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2015 年度 中学歴史 I』(中 1 生対象) 他 河合塾

千葉県姥山貝塚発掘作業の様子 「とくダネ!」 フジテレビジョン

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『ウイニングスプラウト 歴史』 好学出版

神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他 2015 年度『第 1 回全統マーク模試』 地理歴史「日本史 B」 河合塾

長野県矢出川遺跡出土細石刃石核 (実測図) 他 堤隆編『矢出川: 日本列島で最初に発見された細石刃石器群の研究』 信毎書籍出版センター

福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成27年度 進研ゼミ中学講座『中 1 Challenge 英数国理社8月号【歴史専修】』 他 ベネッセコーポレーション

群馬県岩宿遺跡出土刃部磨製石斧 中学受験コース

レギュラープラン 『エブリスタディアドバンスト 5年生』 ハイレベル・スタンダード共通 6月号社会 Z会

東京都茂呂遺跡出土ナイフ形石器 中学受験コースレギュラープラン 『エブリスタディアドバンスト 5年生』 ハイレベル・スタンダード共通 6月号社会 Z会

北海道置戸安住遺跡出土搔器 中学受験コースレギュラープラン 『エブリスタディアドバンスト 5年生』 ハイレベル・スタンダード共通 6月号社会 他 Z会

ウ 商品部門

時田昌瑞ことわざコレクション II-2-31 人ころろ 浮世乃たとへ 『ヴォルフガング・ミュラー教授 70 歳記念論文集』 Peter Lang Verlag

時田昌瑞ことわざコレクション 新板いろはたとへ 雙六 温潤琮『日本語の成語・諺語 300 選』 台湾大新書局

(5) 図書

①蔵書数

| | | | |
|----|-------|--------|--------|
| 図書 | 全所蔵冊数 | (冊) | 83,740 |
| | 和 | (冊) | 82,967 |
| | 洋 | (冊) | 773 |
| 雑誌 | 全所蔵冊数 | (タイトル) | 2,938 |
| | 和 | (タイトル) | 2,886 |
| | 洋 | (タイトル) | 52 |

②購入・寄贈数

ア 図書受入数

| | | | |
|-------------------|----|-----|-----------|
| 総受入冊数 | | (冊) | 2,392 |
| 図書受入冊数 製本雑誌を含む | 購入 | 和 | (冊) 154 |
| | | 洋 | (冊) 2 |
| | 寄贈 | 和 | (冊) 2,235 |
| | | 洋 | (冊) 1 |

イ 雑誌継続タイトル数

| | | |
|--------|--------|------------|
| 総受入種類数 | (タイトル) | 978 |
| 雑誌受入種数 | 和 | (タイトル) 976 |
| | 洋 | (タイトル) 2 |

V 統計・一覧

1 入館データ

(1) 入館状況

①開館日数・時間

ア 休館日 8月11日～16日／12月26日～1月7日 8月17日(日)臨時休館

イ 開館時間 10時～17時

ウ 月別開館日数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 開館日数 | 30 | 31 | 30 | 31 | 23 | 30 | 31 | 30 | 25 | 24 | 28 | 31 | 344 |

エ 月別入館・利用者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 常設展 | 3,540 | 4,385 | 3,655 | 3,802 | 3,611 | 3,434 | 4,279 | 4,232 | 2,845 | 2,305 | 2,878 | 3,367 | 42,333 |
| 特別展 | 1,694 | 2,721 | 1,862 | 1,690 | 800 | 2,420 | 1,479 | 1,739 | 607 | 0 | 574 | 1,351 | 16,937 |
| 図書室 | 234 | 540 | 559 | 613 | 295 | 418 | 661 | 643 | 632 | 379 | 274 | 228 | 5,476 |
| 教室等利用者数 | 248 | 227 | 321 | 306 | 50 | 350 | 224 | 209 | 279 | 310 | 435 | 244 | 3,203 |
| 計 | 5,716 | 7,873 | 6,397 | 6,411 | 4,756 | 6,622 | 6,643 | 6,823 | 4,363 | 2,994 | 4,161 | 5,190 | 67,949 |

《参考》年度別入館・利用者数

| | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2004～14 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 常設展示室 | 48,629 | 45,971 | 52,240 | 49,604 | 46,059 | 457,188 |
| 特別展示室 | 20,134 | 17,968 | 21,619 | 20,874 | 21,057 | 185,427 |
| 図書室 | 4,108 | 5,030 | 5,531 | 5,973 | 5,621 | 55,884 |
| 教室等利用 | 3,326 | — | 1,119 | 1,637 | 2,254 | 14,151 |
| 計 | 76,197 | 68,969 | 80,509 | 78,088 | 74,991 | 712,650 |

②特別展入館者数

| 名称 | 期間 | 開館日数 | 入館者数 |
|---------------------------------|---------------|------|--------|
| 藩領と江戸藩邸 ～内藤家文書の描く 磐城平・延岡・江戸～ | 10月11日～12月11日 | 62日間 | 3,825名 |

③主催・共催展入館者数

| 名称 | 期間 | 開館日数 | 入館者数 |
|--|-----------------------------|------|--------|
| 明大博物館クロニクルー過去・現在・そして、未来ー | 5月3日～6月22日 | 51日間 | 4,385名 |
| オーソドックスな古文書展示 続編 | 6月28日～8月8日 | 42日間 | 2,688名 |
| ウィリアム・ガウランドと明治期の古墳研究 | 9月6日～9月28日 | 23日間 | 2,420名 |
| 失われた街が語りかけるもの ～リアス・アーク美術館 東日本大震災と津波の記録～ | 2015年2月21日～3月26日 ※日祝日は休室 | 28日間 | 1,925名 |

(2) 団体見学

①月別集計一覧

ア学校団体

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----|-----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|
| 団体数 | 3 | 4 | 5 | 5 | 2 | 4 | 4 | 7 | 3 | 4 | 4 | 2 | 47 |
| 人数 | 165 | 92 | 70 | 297 | 34 | 96 | 134 | 124 | 93 | 96 | 72 | 37 | 1,310 |

イ一般団体

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----|----|-----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-------|
| 団体数 | 1 | 7 | 4 | 4 | 0 | 5 | 6 | 4 | 7 | 2 | 6 | 8 | 54 |
| 人数 | 35 | 252 | 89 | 100 | 0 | 70 | 126 | 80 | 395 | 36 | 111 | 154 | 1,448 |

《参考》団体見学数の推移

| 学校団体 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 一般団体 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 団体数 | 62 | 86 | 54 | 51 | 50 | 団体数 | 50 | 51 | 58 | 61 | 54 |
| 人数 | 2,102 | 3,770 | 1,888 | 1,257 | 1,352 | 人数 | 1,537 | 1,586 | 1,293 | 1,615 | 1,094 |

②団体一覧

4月

兵庫県立津名高等学校同窓会東京支部、茨城高等学校、南三陸町立歌津中学校、神奈川県立住吉高等学校

5月

かわさき歩け歩け運動連合会、紅葉の会、パラボラシニアゆう倶楽部、足立区立六月中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、NAKA106 町、新宿区高齢者学級連合会、山脇学園高等学校、八千代会、越谷市郷土研究会、岐阜中央中学校

6月

早稲田大学オープンカレッジ、大原日本語学院、群馬県吉岡中学校、明治大学情報コミュニケーション学部 タイ・ラオス留学生、日本セカンドライフ協会、カッコイイ おやじの会、豊橋市立吉田方中学校、道の会、正則学園高等学校

7月

NHK 学園くにたちオープンスクール、東京都立田柄高等学校、麻生夢会、巣鴨朋友会、千葉県東中 PTA 研修部、松商学園高等学校、サンパウロ大学法学部、筑波大学附属桐が丘特別支援学校、明治大学 Law in Japan Program

8月

拓殖大学第一高等学校 図書委員会、富山県立小杉高等学校

9月

神戸学院大学 佐藤ゼミ、千葉県生涯大学校卒業生 福祉科 35 期会、東北学院大学 遠藤ゼミ、福岡大学法学部 基礎ゼミ、生涯歩こう会、いてふの会、柏市防犯協会 土南部支部、所沢高齢者大学サンマルコ会、明治学院中学校

10月

韓国大学生訪日研修団、新潟県立新発田高等学校、宗教法人 月窓寺 役員会、明治大学文学部演習 I (野尻ゼミ)、NHK 文化センター 横浜教室・千葉教室、いわき市立錦公民館市民講座、NHK 文化センター 青山教室・ユウカリが丘教室・前橋教室、野田古文書仲間、紫懇会、駿台甲府中学校 2 年生

11月

成城中学校、浜松修学舎高等学校 1 年生、下総郷土史研究会、立教新座中学校 1 年生、歴史研究会、放送大学熟年会、専門学校東京ネットウェイブ高等部、高井戸自主グループ交流会、足立歴史サークル、宮城県泉高等学校 2 年生

12月

歴史を訪ねる会、千代田区立お茶の水小学校、公文国際学園 3 年生、千葉県生涯大学校卒業生学習会、土曜あしの会、ぶら友 22、日本セカンドライフ協会、国本女子高等学校 2 年生、東京都ウォーキング協会

2015 年 1 月

錦城高等学校 新聞部、寺井グループ、二松學舎大学附属高等学校、歴史を学ぶ会、和光高等学校 古代史研究、中野区立北中野中学校

2015 年 2 月

事例研究会の会、玄暉会、江東区立第二亀戸中学校、葛飾区立一ノ台中学校、遊学舎クラブ (YGC)、ぶらり会、水戸ロータリークラブ、ISI ランゲージスクール、埼玉県立朝霞高等学校、NHK 旧友会ハイキング部

2015 年 3 月

埼玉滋賀県人会、君津市周西公民館、長野県長和町中学生、共立財団日語学院、明治大学学生赤十字奉仕団 OB 会 0.5 次会、明治大学校友会多摩支部 東久留米地域支部、エコマインド 05、SBS 学苑、キャプラン株式会社 J プレゼンスアカデミー、パナソニック電工 松寿会

(3) 視察・研修受入

①受入団体数・参加人数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 団体数 | — | 1 | — | 1 | 2 | 1 | — | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 11 |
| 人数 | — | 2 | — | 2 | 17 | 12 | — | 2 | 45 | 2 | 9 | 7 | 98 |

②団体名一覧

品川区立小中一貫校品川学園職場体験（5月8～9日）、東京都立大泉高等学校附属中学校職場体験（7月7～9日）、五島育英会（8月5日）、日本女子大学見学実習（8月29日）、南山大学見学実習（9月11日）、東京都立白鷗高等学校附属中学校職場体験（11月11～13日）、八千代市社会科教育研究部会（12月3日）、府中市文化センターあり方検討協議会（12月16日）、東京都立小石川中等教育学校職場体験（2015年1月29～30日）、神奈川大学日本常民文化研究所（2015年2月24日）、（韓国）刑事政策研究院（2015年3月18日）

(4) 図書閲覧サービス

①図書室

ア 開室時間 月～土曜日 10:00～16:30

イ 閲覧者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-------|
| 学部生 | | | | | | | | | | | | | |
| 大学院生 | 105 | 361 | 391 | 413 | 155 | 258 | 470 | 425 | 437 | 222 | 140 | 90 | 3,467 |
| 明大教職員 | 14 | 11 | 7 | 16 | 8 | 9 | 10 | 18 | 11 | 17 | 5 | 5 | 131 |
| 友の会 | 25 | 41 | 33 | 70 | 36 | 30 | 35 | 33 | 63 | 54 | 38 | 36 | 494 |
| リベリアアカデミー会員 | 4 | 10 | 6 | 6 | 2 | 3 | 6 | 5 | 4 | 1 | 4 | 4 | 55 |
| 聴講生 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 6 |
| OB | 23 | 35 | 29 | 22 | 10 | 25 | 27 | 30 | 19 | 16 | 17 | 16 | 269 |
| 他大学学生 | 31 | 44 | 51 | 49 | 54 | 57 | 74 | 100 | 64 | 24 | 32 | 35 | 615 |
| 一般 | 29 | 34 | 37 | 35 | 27 | 31 | 29 | 25 | 25 | 35 | 27 | 28 | 362 |
| 明大その他 | 3 | 4 | 4 | 2 | 3 | 5 | 8 | 6 | 8 | 10 | 11 | 13 | 77 |
| 合計 | 234 | 540 | 559 | 613 | 295 | 418 | 661 | 643 | 632 | 379 | 274 | 228 | 5,476 |
| 開室日数 | 26 | 24 | 25 | 27 | 16 | 23 | 27 | 23 | 21 | 21 | 23 | 25 | 281 |
| 1日平均 人 | 9.0 | 22.5 | 22.4 | 22.7 | 18.4 | 18.2 | 24.5 | 28.0 | 30.1 | 18.0 | 11.9 | 9.1 | 19.5 |

2 組織・構成

(1) 博物館スタッフ

①館長・副館長

任期：2014. 4. 1～2016. 3. 31

| 役職 | 氏名 | 所属 | 専門 |
|-----|-------|--------|--------|
| 館長 | 風間 信隆 | 商学部教授 | 比較経営論 |
| 副館長 | 林 ひふみ | 理工学部教授 | 東アジア研究 |

②専任職員

| 役職 | 氏名 | 担当 | 専門 |
|-----------|-------|---------|-----------|
| 学術・社会連携部長 | 浮塚 利夫 | | |
| 博物館事務長 | 坂元 昭一 | | |
| 学芸員 | 外山 徹 | 商品・刑事部門 | 博物館学／地域文化 |
| 学芸員 | 島田 和高 | 考古部門 | 旧石器文化 |
| 学芸員 | 日比佳代子 | 刑事部門 | 日本近世史 |
| 学芸員 | 忽那 敬三 | 考古部門 | 弥生・古墳文化 |

③非常勤職員

| | 氏名 | 担当 |
|--------|--------|------------|
| 短期嘱託職員 | 織田 潤 | 庶務部門担当 |
| 短期嘱託職員 | 丸山 寛 | 庶務(図書)部門担当 |
| 短期嘱託職員 | 松尾 藍 | 刑事部門担当 |
| 短期嘱託職員 | 海塚 有理 | 商品部門担当 |
| 短期嘱託職員 | 伊藤 友香子 | 考古部門担当 |
| 短期嘱託職員 | 土谷 あゆみ | 考古部門担当 |

(2) 博物館協議会

①協議会 任期 2013. 4. 1～2015. 3. 31

| | | |
|------|--------|------------------|
| 委員長 | 矢島 國雄 | 文学部教授 |
| 副委員長 | 菊池 亮一 | 学術・社会連携部図書館総務事務長 |
| | 山口 政信 | 法学部教授 |
| | 高橋 昭夫 | 商学部教授 |
| | 吉村 武彦 | 文学部教授 |
| | 阿部 芳郎 | 文学部教授 |
| | 佐々木 憲一 | 文学部教授 |
| | 野尻 泰弘 | 文学部専任講師 |
| | 宮腰 哲雄 | 理工学部教授 |
| | 薩摩 秀登 | 経営学部教授 |
| | 古屋野 素材 | 情報コミュニケーション学部教授 |
| | 田部井 茂 | 経営企画部長 |
| | 庄井 正志 | 国際連携部国際連携事務長 |

②資料評価分科会 任期 2013. 6. 18～2015. 3. 31

| | | |
|----|--------|---------|
| 座長 | 高橋 昭夫 | 商学部教授 |
| | 佐々木 憲一 | 文学部教授 |
| | 薩摩 秀登 | 経営学部教授 |
| | 野尻 泰弘 | 文学部専任講師 |

(3) 研究調査員

任期 2014. 4. 1～2015. 3. 31

| | |
|-------|------------------------|
| 上原 義子 | 商学部兼任講師 東京都市大学非常勤講師 |
| 落合 弘樹 | 文学部教授 |
| 牛米 努 | 税務大学校租税史料室 文学部兼任講師 |
| 山路 直充 | 市立市川考古博物館 文学部兼任講師 |

(4) 各種委員会 ※校規に基づき設置

①大久保忠和考古学振興基金運営委員会

任期 2013. 4. 1～2015. 3. 31 ◎は博物館協議会委員

| | | | |
|-----|--------|------------------|---|
| 委員長 | 風間 信隆 | 博物館長 | |
| | 林 ひふみ | 副館長 | |
| | 安蒜 政雄 | 文学部教授・考古学専攻教員 | |
| | 石川 日出志 | 文学部教授・考古学専攻教員 | |
| | 阿部 芳郎 | 文学部教授・考古学専攻教員 | ◎ |
| | 佐々木 憲一 | 文学部教授・考古学専攻主任 | ◎ |
| | 藤山 龍造 | 文学部専任講師・考古学専攻教員 | |
| | 矢島 國雄 | 文学部教授・学芸員養成課程教員 | ◎ |
| | 吉田 優 | 文学部准教授・学芸員養成課程教員 | |
| | 小川 直裕 | 文学部OB | |
| | 熊野 正也 | 文学部OB | |
| | 鈴木 弘 | 友の会会長 | |
| | 坂元 昭一 | 博物館事務長 | |

(5) 作業部会

①博物館・大学院商学研究科・商学部連携

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

◎は博物館協議会委員

| | | | |
|----|-------|------------------------|---|
| 座長 | 高橋 昭夫 | 協議会委員・商学部教授(商品学) | ◎ |
| | 上原 義子 | 商学部兼任講師 東京都市大学非常勤講師 | |
| | 外山 徹 | 博物館学芸員 | |

(6) 明治大学博物館友の会 2014 年度役員

| | | | |
|-----|---------------|---------------|---------------|
| 相談役 | 風間 信隆 | 林 ひふみ | |
| 顧問 | 大塚 初重 | 倉田 公裕 | 熊野 正也 |
| | 杉原 重夫 | | |
| 会長 | 鈴木 弘 | | |
| 副会長 | 野口 淳 | 平井 孝雄 | |
| 理事 | 蕨 俊夫 (総務) | 橋本 秀夫 (行事) | 村井 孝行 (会計) |
| | 青鹿 良市 (広報) | | |

| | | | |
|--------------|----------------|--------|--------|
| 運営委員 (総務) | 佐藤 貞子 | 大島 淑子 | |
| 〃(会計) | 古沢 芳枝 | | |
| 〃(行事) | 松村 祐安 | 本橋 清美 | |
| 〃(広報) | 望月 桂一郎 | | |
| 図書室管 理員代表 | 木戸 孝義 | | |
| 展示解説 員代表 | 渡辺 やす子 | | |
| 監事 | 斉藤 正美 | 支倉 紀代美 | |
| 分科会 | 古文書を読む会 | | 高橋 幸子 |
| | 平成内藤家文書研究会 | | 粕谷 宏幸 |
| | 工芸の会 | | 本橋 清美 |
| | 旧石器・縄文文化研究会 | | 長野 陽次 |
| | 弥生文化研究会 | | 磯部 隆信 |
| | 古文書の基礎を学ぶ会 | | 石井 吉彦 |
| | 東アジアの中の古代日本研究会 | | 山本 廣一 |
| | 前方後円墳研究会 | | 磯部 隆信 |
| | 「倭国から大和」を学ぶ会 | | 岡田 幸次郎 |
| | 古代東北アジアと日本研究会 | | 勝尾 實 |

(7) 各種会議開催日

① 博物館協議会

6/18 2015/3/23

② 資料評価分科会

7/16 11/25

③ 大久保忠和考古学振興基金運営委員会

4/15

④ 博物館・友の会連絡会議

5/16 9/19 11/21 2015/2/20

3 予算・決算

(1) 2014 年度事業費予算・決算

予算

| 科目 \ 目的 | 博物館費 | 基金事業費 | 政策経費 1 特別展 「藩領と江戸藩邸」 | 政策経費 2 大学博物館 交流事業 | 政策経費 3 内藤家文書 研究・交流 | 合計 |
|-------------|------------|---------|----------------------------|-------------------------|--------------------------|------------|
| 兼務職員人件費 | 1,419,000 | | 220,000 | | | 1,639,000 |
| 教) 福利費 | 17,000 | | | | | 17,000 |
| 教) 修繕費 | 127,000 | | | | | 127,000 |
| 教) 旅費交通費 | 1,022,000 | 10,000 | 630,000 | 120,000 | 430,000 | 2,202,000 |
| 教) 業務委託費 | 1,589,000 | | 2,000,000 | 300,000 | 135,000 | 4,024,000 |
| 教) 保険料 | 340,000 | | 190,000 | 30,000 | | 560,000 |
| 教) その他の消耗品費 | 1,969,000 | 20,000 | | 80,000 | | 2,049,000 |
| 教) 印刷製本費 | 2,516,000 | | 1,800,000 | 60,000 | | 4,376,000 |
| 教) 運搬費 | 85,000 | | 900,000 | 375,000 | | 1,360,000 |
| 教) 広告費 | | | 480,000 | | | 480,000 |
| 教) 支払手数料 | 313,000 | 30,000 | 190,000 | 35,000 | 95,000 | 633,000 |
| 教) 賃借料 | 17,000 | | | | | 17,000 |
| 教) 会合費 | 102,000 | 60,000 | 90,000 | | | 192,000 |
| 教) 公租公課 | 35,000 | | | | | 35,000 |
| 管) その他の消耗品費 | 42,000 | | | | | 42,000 |
| 教育研究用機器備品 | 5,100,000 | | 500,000 | | | 5,600,000 |
| 図書 | 340,000 | | | | | 340,000 |
| 合計 | 15,033,000 | 120,000 | 7,000,000 | 1,000,000 | 660,000 | 23,693,000 |
| 前年度予算額 | 17,680,000 | | | | | 31,400,000 |
| 増・減(△) | △2,647,000 | | | | | △7,707,000 |

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない
 ※合計金額は博物館費と政策経費の合計で基金事業費を含んでいない

決算

| 科目 \ 目的 | 博物館費 | 基金事業費 | 政策経費 1 特別展 「藩領と江戸藩邸」 | 政策経費 2 大学博物館 交流事業 | 政策経費 3 内藤家文書 研究・交流 | 合計 |
|-------------|-----------|-----------|----------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------|
| 兼務職員人件費 | 1,004,098 | | 168,312 | | | 1,172,410 |
| 教) 修繕費 | 1,624,410 | | | | | 1,624,410 |
| 教) 旅費交通費 | 1,581,484 | 0 | 182,938 | 136,100 | 329,132 | 2,229,654 |
| 教) 業務委託費 | 1,393,650 | | 3,292,012 | 0 | 143,213 | 4,828,875 |
| 教) 保険料 | 143,250 | | 9,900 | 0 | | 153,150 |
| 教) その他の消耗品費 | 1,959,831 | 0 | 101,827 | 25,812 | | 2,087,470 |
| 教) 印刷製本費 | 1,608,703 | 2,712,800 | 1,765,476 | 117,590 | | 3,491,769 |
| 教) 郵便費 | 1,220 | | | | | 1,220 |
| 教) 運搬費 | 1,094,339 | | 430,340 | 508,698 | | 2,033,377 |
| 教) 広告費 | 757,800 | | 842,400 | | | 1,600,200 |

| | | | | | | |
|-----------|------------|-----------|-----------|---------|---------|------------|
| 教) 支払手数料 | 96,000 | 0 | 117,908 | 0 | 90,000 | 303,908 |
| 教) 賃借料 | 15,184 | | | | | 15,184 |
| 教) 会合費 | 70,491 | 22,340 | 59,255 | | | 129,746 |
| 教) 公租公課 | 30,000 | | | | | 30,000 |
| 教) 雑費 | | 2,409,200 | | | | |
| 管) 準備品 | 139,104 | | | | | 139,104 |
| 管) 雑費 | 20,571 | | | | | 20,571 |
| 教育研究用機器備品 | 3,269,250 | | 0 | | | 3,269,250 |
| 合 計 | 14,809,385 | 5,144,340 | 6,970,368 | 788,200 | 562,345 | 23,130,298 |
| 前年度決算額 | 15,186,535 | | | | | 26,978,558 |
| 増・減(△) | △377,150 | | | | | △3,848,260 |

※予算額を超える執行は年度途中に予算振替の措置を取っている
 ※合計金額は博物館費と政策経費の合計で基金事業費を含んでいない
 ※基金事業の奨励金額は「教) 雑費」として支出している

(2) 2014 年度収入

| 科目：その他の雑収入 | 予算額 | 決算額 |
|-------------|-----------|------------|
| 博物館発行資料売上代 | 600,000 | 318,600 |
| 文献複写・資料代 | 10,000 | 37,630 |
| 撮影・掲載料 | 200,000 | 635,500 |
| 特別展入場料 | 450,000 | 978,260 |
| ミュージアムグッズ売上 | 10,000 | 618,740 |
| その他の雑収入 | 10,000 | 9,331 |
| 合 計 | 1,280,000 | 2,598,061 |
| 前年度予算・決算額 | 1,280,000 | 3,643,680 |
| 増・減(△) | 0 | △1,045,619 |

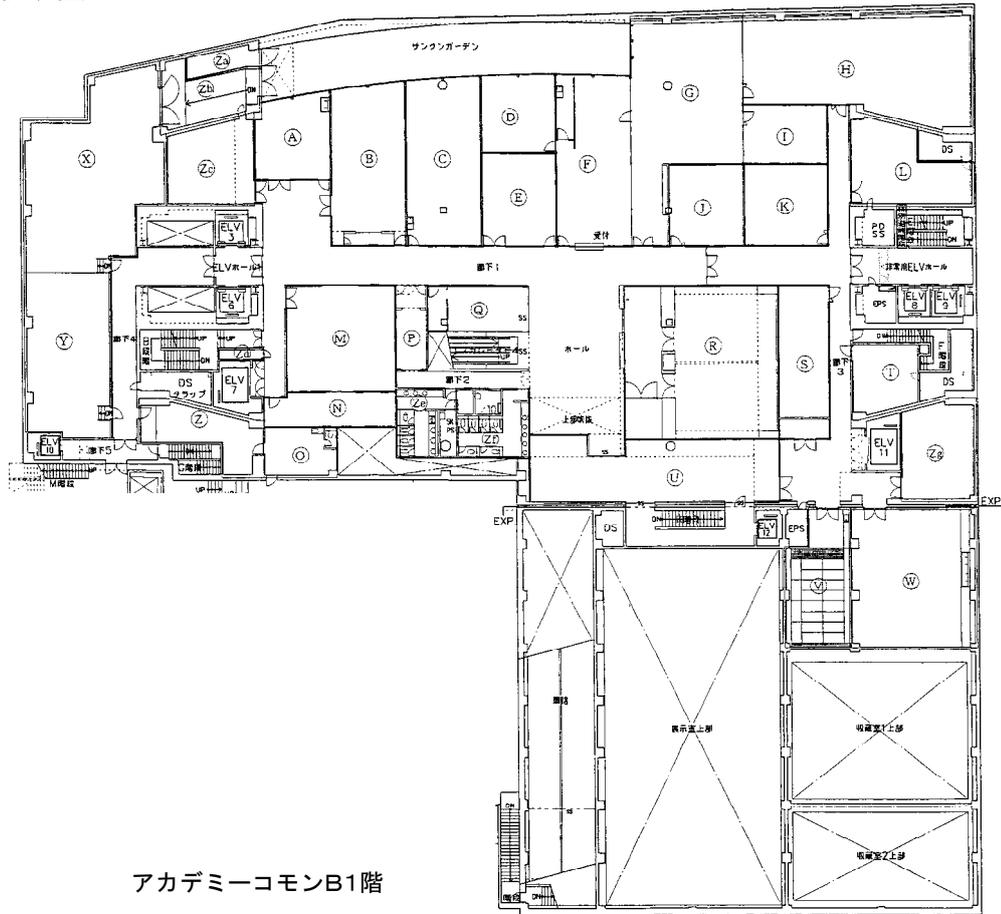
4 施設概要・見取り図

(1) 施設概要

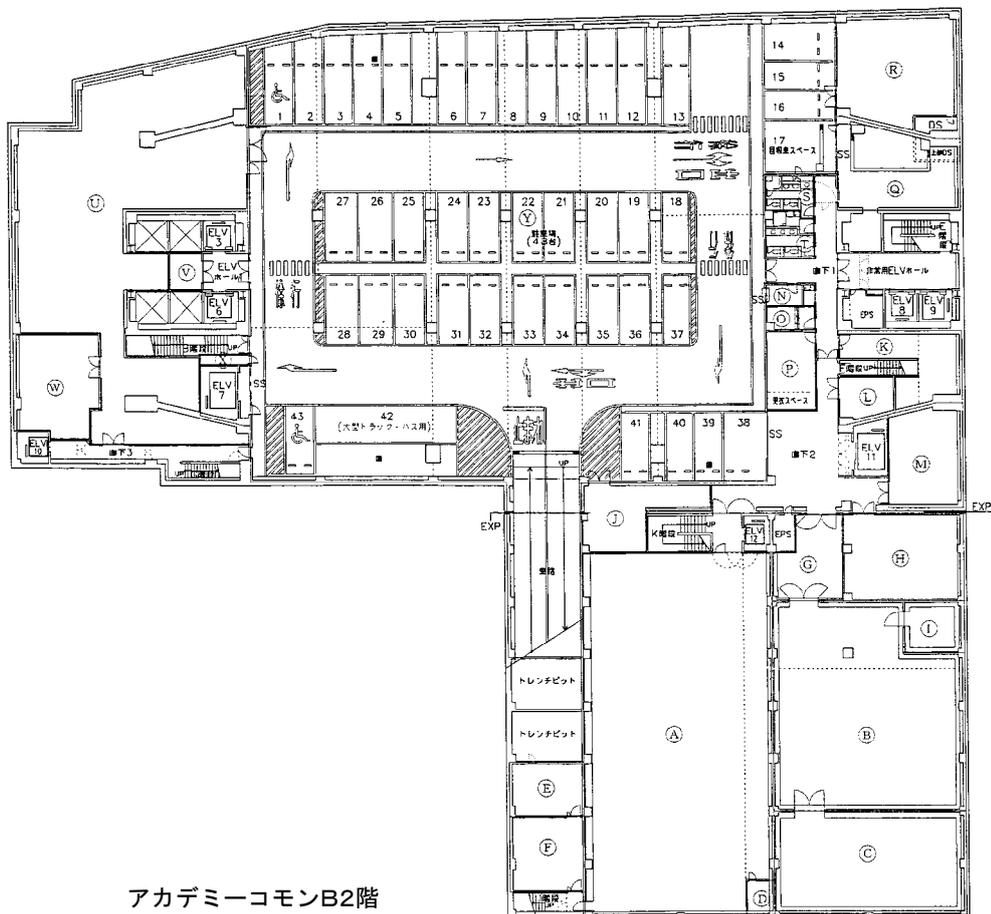
(単位 m²)

| | | 階 | 記号 | 面積 | 延べ面積 |
|--------|------------|----|----|-----------------------|-------------------------|
| 管理部門 | 館長室 | B1 | D | 42.86 m ² | 243.90 m ² |
| | 事務室 | B1 | F | 94.06 m ² | |
| | 会議室 | B1 | J | 45.12 m ² | |
| | 倉庫 | B1 | L | 61.86 m ² | |
| 教育普及部門 | 図書室 | B1 | G | 145.04 m ² | 523.22 m ² |
| | 書庫 | B1 | H | 176.03 m ² | |
| | 閲覧室 | B1 | I | 35.95 m ² | |
| | 博物館教室 | B1 | B | 87.94 m ² | |
| | 体験学習室 | B1 | A | 44.31 m ² | |
| | ミュージアムショップ | B1 | Q | 33.95 m ² | |
| 展示室 | 常設展示室 | B2 | A | 497.19 m ² | 785.73 m ² |
| | 大学史展示室 | B1 | U | 115.20 m ² | |
| | 特別展示室 | B1 | R | 173.34 m ² | |
| 調査研究部門 | 学芸研究室 | B1 | C | 92.03 m ² | 332.76 m ² |
| | 作業室 1 | B1 | V | 60.80 m ² | |
| | 作業室 2 | B1 | W | 129.70 m ² | |
| | 展示準備室 | B1 | K | 50.23 m ² | |
| 収蔵部門 | 前室 | B2 | G | 38.90 m ² | 649.11 m ² |
| | 一時保管室 | B2 | H | 77.35 m ² | |
| | 収蔵室 1 | B2 | B | 271.46 m ² | |
| | 収蔵室 2 | B2 | C | 147.37 m ² | |
| | 特別収蔵室 | B2 | I | 23.28 m ² | |
| | 写真保管室 1 | B1 | S | 56.68 m ² | |
| | 写真保管室 2 | B1 | T | 34.07 m ² | |
| 合 計 | | | | | 2,534.72 m ² |

(2) 施設見取り図



アカデミーコモンB1階



アカデミーコモンB2階

5 規程

明治大学博物館規程

1991 年 10 月 31 日制定
1991 年規程第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、明治大学学則第 64 条第 2 項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友並びに一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

第 3 条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (7) 生涯教育の振興及び学習支援
- (8) 分館の設置及び運営
- (9) その他必要と認められる事業

(館長)

第 4 条 博物館に、館長 1 名を置く。

- 2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。
- 3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により本大学が任命する。
- 4 館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 館長は、再任されることができる。
- 6 館長は、学部、大学院、付属学校又は付属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

第 5 条 博物館に、副館長 1 名を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、本大学が任命する。
- 4 副館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

第 6 条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職 1 名並びに学芸員及び職員若干名を置く。

3 学芸員は、第 3 条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

第 6 条の 2 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

2 研究調査員は、本大学の教職員並びに学外の有識者及び若手研究者の中から、館長が次条に規定する明治大学博物館協議会の同意を得て委嘱する。

3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館協議会)

第 7 条 博物館の運営に関する事項について検討し、及び協議し、並びに館長の諮問に応じるため、博物館に明治大学博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、本大学の専任教職員の中から、館長の意見を聴いて学長が委嘱する委員若干名をもって組織する。

3 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

5 協議会に、委員長及び副委員長各 1 名を置く。

6 委員長及び副委員長は、委員の互選により、これを定める。

7 委員長は、協議会を招集し、その議長となる。

8 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

9 協議会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

10 協議会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。

11 分科会に関し必要な事項は、委員長が協議会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

第 8 条 この規程を改廃するときは、協議会の議を経なければならない。

(雑則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、館長が協議会に諮り、学長の承認を得て別に定める。

附 則 (1991 年規程第 2 号)

(施行期日)

1 この規程は、1991 年（平成 3 年）10 月 31 日から施行する。

(明治大学刑事博物館規程等の廃止)

2 次に掲げる規程は、廃止する。

- (1) 明治大学刑事博物館規程（昭和 56 年規程第 72 号）
- (2) 明治大学商品陳列館規程（昭和 56 年規程第 73 号）
- (3) 明治大学考古学博物館規程（昭和 56 年規程第 74 号）

(通達第 669 号)

附 則 (1996 年度規程第 16 号)

この規程は、1997 年 (平成 9 年) 4 月 1 日から施行する。

(通達第 893 号) (注 博物館協議会の設置に伴う改正)

附 則 (2001 年度規程第 14 号)

この規程は、2002 年 (平成 14 年) 4 月 1 日から施行する。

(通達第 1143 号) (注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正)

附 則 (2003 年度規程第 8 号)

(施行期日)

- 1 この規程は、2004 年 (平成 16 年) 4 月 1 日から施行する。

(改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例)

- 2 改正前の明治大学博物館規程第 6 条第 1 項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第 8 条第 1 項の規定にかかわらず、2004 年 (平成 16 年) 3 月 31 日をもって満了するものとする。

(通達第 1232 号) (注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正)

附 則 (2006 年度規程第 13 号)

この規程は、2006 年 (平成 18 年) 11 月 16 日から施行する。

(通達第 1490 号) (注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正)

附 則 (2007 年度規程第 21 号)

この規程は、2007 年 (平成 19 年) 9 月 10 日から施行する。

(通達第 1562 号) (注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2008 年度規程第 4 号)

この規程は、2008 年 (平成 20 年) 5 月 20 日から施行する。

(通達第 1689 号) (注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正)

附 則 (2009 年度規程第 7 号)

この規程は、2009 年 (平成 21 年) 6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

(通達第 1807 号) (注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994 年 9 月 26 日制定

1994 年度例規第 7 号

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、明治大学博物館規程 (1991 年規程第 2 号) 第 9 条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品 (以下「資料等」という。) の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真、映画、テレビジョン若しくはビデオテープレコーダーによる撮影、模写又は複製を行うことをいう。
- (2) 影印 資料等を、写真印刷により復刻することをいう。
- (3) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

(申請)

第 3 条 資料等の撮影及び掲載 (以下「撮影・掲載」という。) を希望する者 (以下「申請者」という。) は、所定の資料撮影・掲載申請書 (以下「申請書」という。) を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長 (以下「館長」という。) に提出し、許可を受けなければならない。

(許可)

第 4 条 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
- (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
- (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
- (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

(撮影・掲載を許可しない場合)

第 5 条 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載 (第 5 号に該当する場合にあっては、第 8 条に規定する掲載を除く。) を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合

- (5) 撮影をすることなく、資料等の写真原版若しくは複製物、博物館所蔵の映画フィルム若しくはビデオテープ又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができる」と明らかに認められる場合

- (6) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

第6条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

- 2 料金は、資料等を1点当たりの金額とする。

- 3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。

(料金の免除)

第7条 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。

- (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。

- (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。

- (4) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。

- (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。

- (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。

- (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

- 2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

第8条 資料等の熟覧及び写真原版、ビデオテープ又は複製物の利用による掲載（以下「貸出掲載」という。）については、第3条から前条までの規定を準用する。

- 2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第2に定める料金を、貸出掲載にあつては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。

(その他の諸経費)

第9条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

第10条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

- 2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

第11条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

- 2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

第12条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

- 2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

第13条 この要綱に定めのない事項については、館長が博物館協議会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附則（1994年度例規第7号）

この要綱は、1994年（平成6年）9月27日から施行する。

附則（1997年度例規第7号）

この要綱は、1997年（平成9年）12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。

（通達第922号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正）

附則（2004年度例規第7号）

この要綱は、2004年（平成16年）10月1日から施行する。

（通達第1312号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正）

附則（2007年度例規第9号）

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。

（通達第1563号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附則（2009年度例規第9号）

この要綱は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1808号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

別表第1（第6条関係） 撮影・掲載料金

1 一般

| | |
|--|--------|
| 写真 映画 テレビジョン ビデオテープ レコーダー 模写 | 10,000 |
| 複製 | 20,000 |

(単位：円)

2 影印

| | |
|-----|--|
| 影 印 | 頒布価格×(該当ページ数÷総ページ数)×0.05×出版部数の算式により算出された額。ただし、料金の最低限度額を10,000円とする。 |
|-----|--|

(単位：円)

別表第2（第8条関係） 熟覧料金

| | |
|-----|-------|
| 熟 覧 | 5,000 |
|-----|-------|

(単位：円)

別表第3（第8条関係） 貸出掲載料金

1 フィルム

| | | | |
|--------|----------|--------------------|-------|
| サイズ | 4×5(インチ) | 6×8(cm) 6×6(cm) | 35mm |
| カラー | 7,500 | 6,000 | 2,000 |
| モノクローム | 5,000 | 2,000 | 1,000 |

(単位：円)

2 紙焼

| | | |
|--------|--------|--------|
| サイズ | キャビネ以上 | キャビネ未満 |
| カラー | 2,000 | 1,000 |
| モノクローム | 2,000 | 1,000 |

(単位：円)

3 ビデオテープ

| | |
|--------|--------|
| ビデオテープ | 10,000 |
|--------|--------|

(単位：円)

明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱

2005年10月4日制定

2005年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程(昭和46年規程第38号)第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ(以下「特別展示室」という。)の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

第2条 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

第3条 特別展示室は、博物館が実施する特別展等(以下「特別展等」という。)に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

第4条 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。

3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。

(利用申込み)

第5条 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

第6条 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
- (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
- (3) その他利用が不相当と認められる場合

2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

第7条 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不相当と管理責任者が認められたとき。

2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

第9条 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

第10条 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。
- 3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円(消費税を含む。特別展示室I及び特別展示室IIともに同額)とする。
- 4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円(消費税を含む。特別展示室I及び特別展示室IIともに同額)とする。
- 5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

(権利の譲渡及び転貸の禁止)

第11条 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

第12条 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

- 2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。
- 3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

第13条 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務局が行う。

(要綱の改廃)

第14条 この要綱を改廃するときは、博物館協議会の議を経なければならない。

附 則 (2005年度例規第8号)

この要綱は、2005年(平成17年)10月5日から施行する。(通達第1397号)

附 則 (2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995年5月8日制定

1995年度規程第2号

(設定)

第1条 明治大学(以下「本大学」という。)に、本大学文学部史学地理学科(考古学専攻)の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金5,000万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金(以下「基金」という。)を設定する。

(目的)

第2条 基金は、考古学及び明治大学博物館(以下「博物館」という。)にかかわる調査・研究(以下単に「調査・研究」という。)を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

(資産)

第3条 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

- (1) 第1条の指定寄付金
- (2) 基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金
- (3) 第7条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

(基金の運用等)

第4条 基金の資産は、資金の運用に関する規則(2009年度規則第20号)に基づいて運用する。

- 2 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。
- 3 基金は、第6条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることのできるものとする。

(事業)

第5条 基金による事業は、次のとおりとする。

- (1) 調査・研究に対する助成
- (2) 調査・研究によって得られた成果に対する顕彰
- (3) 前2号のほか、第2条の目的達成に必要な事業

2 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。

(基金運営委員会)

第6条 基金の運用等及び前条第1項の事業に関する事項

を審議するため、基金運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 明治大学博物館長 1名
- (2) 文学部史学地理学科考古学専攻主任（次号において「主任」という。）1名
- (3) 文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者 若干名
- (4) 学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 2名
- (5) 考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名

3 前項第3号及び第5号の委員は、委員長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 第2項第3号及び第5号の委員は、再任されることができる。

6 運営委員会に、委員長を置き、第2項第1号の委員をもって充てる。

7 委員長に事故あるときは、第2項第2号の委員が、その職務を代行する。

8 委員長は、会務を総理する。

9 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

10 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

11 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

12 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。

（収支残額の処理）

第7条 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

（事務）

第8条 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

（規程の改廃）

第9条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

（雑則）

第10条 この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

附 則（1995年度規程第2号）

（施行期日）

1 この規程は、1995年（平成7年）5月9日から施行する。

（委員の任期の特例）

2 この規程の施行後、最初に任命される第6条第2項第3号及び第5号の委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、1997年（平成9年）3月31日までとする。

（通達第806号）

附 則（2003年度規程第35号）

この規程は、2004年（平成16年）4月1日から施行する。

（通達第1282号）（注 考古学博物館が明治大学博物館とし

て統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正）

附 則（2007年度規程第40号）

この規程は、2007年（平成19年）11月8日から施行する。（通達第1604号）（注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正）

附 則（2009年度規程第7号）

この規程は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1807号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2010年度規程第6号）

この規程は、2010年（平成22年）5月26日から施行し、改正後の規定は、同年3月30日から適用する。

（通達第1911号）（注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正）

明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定 1993年4月1日改定

2004年4月 1日改定 2006年4月1日改定

2010年4月 1日改定 2014年4月1日改定

（名称）

第1条 本会は、明治大学博物館友の会という。

（事務所）

第2条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1明治大学（以下「大学」という）に所在する明治大学博物館（以下「博物館」という）内に置く。

（目的）

第3条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 講演会・研修会・見学会などの開催
- ② 会報、ニュース、図書の発行
- ③ 会員による自主研究分科会活動
- ④ 博物館事業への協力活動
- ⑤ その他目的達成に必要と認められた事業

（入会）

第5条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

2 会員には会員証を発行する。

（会員の特典）

第6条 会員には、次の特典がある。

- ① 本会および博物館の行事などの情報提供
- ② 大学並びに博物館主催行事への優待参加
- ③ 大学図書館の閲覧

(退会)

第7条 会員の資格は、次の場合に消滅する。

- ① 退会の申し出があった場合
- ② 死亡した場合
- ③ 会員証記載の有効期限が過ぎた場合
- ④ 本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合
(役員)

第8条 本会に、次の役員を置く。

- ① 会 長 1名
- ② 副 会 長 2名以内
- ③ 理 事 5名以内
- ④ 運営委員 若干名
- ⑤ 監 事 2名以内

(役員を選出)

第9条 役員は、次のとおり選出するものとする。

- ① 会長および監事は、総会で選出する。
- ② 副会長および理事は、会長が任命する。
- ③ 総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室管理員・展示解説員からそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。
- ④ 上記②、③について、会報で報告する。
- ⑤ 監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

(役員職務)

第10条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

- ① 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- ② 副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。
- ③ 理事は、本会の総務、会計、広報、行事などの会務を行う。
- ④ 運営委員は、理事と共に会務を行う。
- ⑤ 監事は、会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べる事が出来る。

(役員任期)

第11条 役員任期は、2年とする、ただし、役員再任を妨げない。

- 2 補充の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(相談役・顧問)

第12条 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。

- 2 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
- 3 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。

(総会)

第13条 本会は、年1回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。

なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、会長は臨時総会を開催しなければならない。

(理事会)

第14条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

- ① 総会に付議する重要な事項。

- ② その他、本会の運営に関する重要な事項。

なお、理事会構成員の過半数の要求があった場合、会長は理事会を開催しなければならない。

(運営委員会)

第15条 運営委員会は、会長・副会長・理事、運営委員を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。

また、必要に応じて分科会代表者などを含めた拡大運営委員会を開催する。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、会長は運営委員会を開催しなければならない。

(会費)

第16条 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。

- ① 一般会員 3,000円
- ② 家族会員 1,500円 (同居の家族)
- ③ 学生会員 1,500円
- ④ 賛助会員(1口) 10,000円

(経費)

第17条 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

第19条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

1. 本会則は、改定年4月1日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

6 2014年度教育・研究に関する計画書

教育・研究に関する長期・中期計画書 博物館

1 理念・目的

新博物館開館から10ヶ年目を迎える。昨年度の来館者数は7万人を超え、一般社会における大学博物館の認知度も向上しつつある。1990年代後半以降顕著となった大学の社会開放に対する要請を背景とする生涯学習事業の活性化については一定の成果を達成したと評価できる。一方、新博物館の開館以降明らかになってきた課題として、40万点以上にのぼる収蔵資料のさらなる利用促進と在学生による博物館活用機会の増大がある。また、学長方針に謳われている「国際化」に対する施策もまた博物館にとって喫緊の課題である。

そこで、博物館は以下のようなミッションを掲げ、長期・中期計画策定方針の根拠としていきたい。

ミッション1：収蔵資料の管理と教育・研究機能の拡充
博物館が管理する国内有数の収蔵資料群を質・量ともに充実させ、調査・研究を進めるとともに、保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し、国際的な視野から教育・研究機会における利活用を促進する。

ミッション2：学内共同利用機関としての機能拡充
学部・大学院や研究・知財戦略機構と連携し、本大学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに、博物館として特色ある教育・研究事業を実現する。

ミッション3：社会貢献・社会連携の拡充
博物館及び本大学における教育・研究の成果を社会に還元する生涯学習の多様な機会を提供するとともに、収蔵資料の原所在地自治体等との交流を通して本大学の社会連携推進に寄与する。

2 教育研究組織

(1) 研究・知財戦略機構との連携、研究活動への参画

刑事、商品、考古の3部門で構成される博物館の収蔵資料に関わる専門領域に関連して、研究・知財戦略機構の附属研究施設、研究クラスター、特定課題研究ユニットの活動への参画や連携、学部・大学院との連携強化により、教員や研究グループとの共同研究体制の構築に努める。

(2) 黒耀石研究センターへの支援

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されたセンターの研究活動に対して引き続き支援の態勢を取り、運営上の提携と事業の共同実施などの方策を推進する。

3 教職員・教職員組織

(1) 博物館協議会の改組

博物館における合議体である「博物館協議会」は、専任教員及び事務管理職によって構成されているが、旧3館時代、事務組織の統合にともなって各館の運営委員会を統合・再編したものである。その意味で、学内共同利用機関としての機能拡充において十分な態勢を取るに至らなかったことに鑑み、全学的な意思反映のネットワーク基盤として機能しつつ、博物館活動の専門領域に対応し得る新たな組織を構想し、改組をおこなう。

(2) 学芸員の専門職的位置付け

本大学の博物館が他大学に対して優位性を保持する理由として、教員の兼担ではない専任の学芸員が配置されており、恒常的な館務への関与が可能な点と、専門的職務遂行要員として機能している点を指摘できる。この、当館にとってのコアコンピタンスを維持・保証するためには、学芸員を専門職として制度的に位置付ける措置が必要である。また、今後の国際的な展開を考慮するならば、相当の研究実績を有し、外国語にも堪能な専門人材の配置が必須要件である。

(3) 学外からの研究者受入体制の整備

博物館の収蔵資料を研究テーマとし、長期的な取り組みを志す学外の研究者による資料の継続的利用に対応する体制を整備する必要がある。レファレンス対応をはじめ、客員研究員としての受入も視野に入れつつ体制の整備を策定・推進する。

4 教育内容・方法・成果

(1) 博物館主催特別展の開催

博物館の中核的事業として例年の政策的計画No.1と位置づけ、担当学芸員一人当たりの年間エフォートの大半を傾注している。特別展を担当する学芸員は、博物館や提携する研究機関の調査・研究の成果をもとに展覧会を企画し、実行委員会や有識者等、多方面からの意見をふまえて準備と運営を担う。

(2) 学内外の機関等と共同で開催する展覧会

これまで利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ、開催準備に対する助言・協力等をおこなってきたが、“共同利用機能の拡充”という目的を考慮すると学内団体による利用をさらに活性化させる必要がある。特別展示室の利用を周知し、展覧会の誘致を促進する態勢を整える。

(3) 教育普及事業

一般社会人を主な対象とし、学芸員の専門的知識・技能を活用した生涯学習プログラム・研究発表会等を実施する。また、在学生教育として、学芸員資格課程における館務実習生の受入、学部間共通総合講座や学部・大学院との連携による公開特別講義、その他収蔵資料を活用

した特色ある講義を継続するとともに、ボランティアやサークル活動等を通じた博物館事業への参加機会を構想する。

5 博物館の国際化対応

(1) ICTミュージアムの構築

博物館の収蔵資料は国内でも有数の学術資源群であり、その活用は国際的な広がり期待される。また、発掘調査報告書や展覧会図録といった蔵書も、際立って特色的な存在である。これら資料情報の国際的な共有を図るため、特別展・常設展の動画コンテンツ制作や収蔵資料の画像データベース公開など電子媒体と多言語による情報発信体制の構築を策定・推進する。

(2) 国外からの研究者受入体制の整備

資料情報の発信とともに、国外の研究者による収蔵資料の利用受入体制を整備することも必要である。客員研究員の受入も視野に体制の整備を策定・推進する。

(3) 国際化対応の組織構築

学芸員は国外での研究発表や調査活動、外国事例の研究などの実績を有するが、その成果を拡張するには、現在の博物館の人員体制は全く不十分であり、速やかな改善が求められる。明治大学における国際的研究の進展を振興する一手段として博物館の活用を考える必要がある。

6 教育研究等環境

(1) 研究環境

ア 博物館事業に関連する調査・研究

特別展の準備をはじめ博物館におけるあらゆる専門的業務の遂行にあたっては、その技術的裏付けとなる調査・研究機会の確保が重要である。これらの調査・研究に際しては科学研究費補助金等外部資金の獲得に積極的に取り組む。

イ 博物館資料に関連する共同研究

現在進行中の「譜代大名内藤家文書」「伝統的工芸品の経営とマーケティング」「時田ことわざコレクション」「玉里舟塚古墳出土資料」「前場幸治瓦コレクション」に関する調査・研究は、研究クラスターや特定課題研究ユニット等と共同で行われている。また、必要に応じて専任教員及び学外の有識者に研究調査員を委嘱して共同研究を行う。政策的計画「内藤家文書研究の推進および旧領延岡市との交流事業」（研究推進は2011年度～2015年度）を推進する。

ウ 大学院生・学生への学習機会の提供

“共同利用機能の拡充”では、院生・学部生への学習機会の提供も主眼となる。「イ」に掲げた各種の調査研究・資料整理作業は、教員と学芸員の主導のもとに、院生・学生の協力を得ながら推進する。

(2) 施設・設備等

ア 博物館施設の見直しと改修

新博物館開館12周年(2016年4月)を目標に、常設展示内容について学術情報の点検とアップデートを行い、必要な展示造作を改修、ミュージアム・ショップのリニューアル計画を策定する。

イ 収蔵スペースの増床

アカデミーコモン地下1、2階にある収蔵室の収容能力はすでに限界に達している。今後の体系的な資料収集と整備に資するべく、500㎡程度の収蔵施設(経費節減のため収納用棚は軽量棚及び中量棚とし集密棚は用いない)の増設を要望したい。また、今後の受贈資料の増加にともなう資料の専門領域の拡大によっては、対処する専門学芸員の増員についても検討する。

(3) 博物館資料及び図書・電子媒体等

ア 博物館資料の構築

刑事・考古・商品の3部門の専門領域について、特色ある博物館資料の充実を目指し、刑事部門では刑罰史関連資料、古文書、絵図・古地図類、考古部門では黒曜石研究、東アジア青銅器、化石人類の関連資料、商品部門では伝統的工芸品産業の関連資料を収集の基本方針とする。また、資料の寄贈の申し出に対応する。

イ 博物館資料の保存処置

博物館資料の活用の前提として、各種資料に必要な保管処置をし、必要に応じて修復を行うため、継続して予算を措置する。

ウ 博物館資料のレファレンス体制

教育・研究への博物館資料の利用促進にあたり十分なレファレンス体制の整備は中核的な課題である。譜代大名内藤家文書については史料目録の再刊などに努めてきたが、その他の収蔵資料についても順次資料検索等の態勢を整備する。

エ 個性的な蔵書構築

博物館3部門に関連する専門図書については今後も計画的に蔵書構築を行っていく。特に、全国各地の発掘調査機関から博物館と考古学専攻に寄贈される遺跡発掘調査報告書、全国各地の博物館・美術館が刊行した展覧会図録、収蔵資料に関連する参考文献の収蔵は当博物館の存在を際立たせている。約10万冊の図書は図書館に資産登録され、書誌情報はOPACに統合されているが、レファレンス環境の整備及び蔵書点検を図書館と連携して推進する。

7 社会連携・社会貢献

文科省の補助事業や大学基準協会による大学評価においても注目されるようになってきた社会連携事業について、社会連携機構、リバティアカデミー、図書館と連携して充実化を図る。

(1) 教育研究成果の社会還元及び情報発信の強化

ア 年間 7 万人を超える大学博物館トップクラスの入場者を数える博物館の特別展示室において、本大学における教育研究の成果を広くアピールする。

イ 研究資源としてばかりではなく、大学教育への興味関心の喚起という観点から、教養・娯楽を含めて社会における幅広い収蔵資料利用を促進する。

ウ 新聞・テレビなど報道機関に対し、タイムリーな情報提供をおこないパブリシティ効果を高める。全学的な教育研究成果の社会発信を図るしくみを博物館として策定する。

(2) 地域連携・大学間連携事業の推進

ア 本大学との間に社会連携事業推進協定を締結している長野県長和町はじめ、長野県や周辺市町村、教育委員会、埋蔵文化財センター、博物館、学会と連携し、「信州黒曜石研究フォーラム」の開催などを通して黒曜石原産地と石器時代遺跡の保存・活用に関する行政的コンセンサス形成を支援する。

イ 考古学・文化人類学の分野で高い評価を得ている南山大学人類学博物館と交流協定を結び、第 2 期(2013 年度～2015 年度)の事業計画を推進する。

ウ これまでに地域連携の実績がある宮崎県延岡市、福島県いわき市、長和町、千代田区などとの間で地域連携を推進する。

エ 学外の教育・研究機関が主催する市民講座等へも積極的に出講し、本大学と博物館の研究成果を社会に還元し、地域連携の推進に努める。

(3) 博物館友の会活動の支援

博物館友の会は市民参画による一般社会との接点として機能しており、その活動の支援は博物館にとって極めて重要である。会員による自律的な運営体制をとっている博物館友の会には、ボランティア参画により展覧会や図書室の運営、資料整理等を支援していただいております。博物館の対外的な評価形成に果たす同会の貢献は大きい。同会と博物館は共存共栄の関係にあり、博物館としてもその活動を積極的に支援していく。

8 管理運営・財務

(1) 事務組織

博物館運営の基幹人材である学芸員については、関係学問分野における専門的知識と技能を要する専門職として制度的に位置付けられるよう要請してゆく。現在、一般事務職員の配置がないことが学芸員による専門的職務遂行を妨げており、世界的なレベルを目指し博物館を発展させる態勢には程遠い。博物館の発展に向けて適切な事務組織を構築するために専任事務職員の配置を関係部署に要求する。

(2) 適切な財産管理手段の構築

収蔵資料の収集プロセスは第 2 次大戦前に遡り、その間には度重なる組織改編や所在地移転があり、資産登録

に関する勘定科目についても一定ではなかったため管理上の混乱が見られる。引き続き収蔵資料の所在確認を進め、資産登録手順や棚卸し等の管理手段について関係各部署と協議の上、適切な財産管理体制を構築する。

9 内部質保証

(1) 自己点検・評価

博物館自己点検・評価委員会による点検・評価作業を中心に、教員・事務管理職によって構成される博物館協議会からの意見聴取をはじめ、それ以外の教職員や学外の有識者から幅広く事業に対する意見を募るなど、点検・評価・改善の方法を制度化したい。また、各種アンケート調査や博物館友の会会員との対話をとおして、積極的に利用者の意見を聴取し、博物館運営と事業の改善に資する。

(2) 情報公開

ア 博物館資料等に関する学術情報の公開

『博物館研究報告』は、投稿規程と査読制度を整備し年次刊行している。また、各種資料整理の成果を図録、目録、報告書等として刊行する。

イ 事業報告と広報活動

事業内容、研究実績、収蔵資料利用数・入館者動向等の各種統計、予算・決算、各種委員会、規程類、施設概要等については、『博物館年報』の年次刊行により公開している。広報誌「ミュージアム・アイズ」(年 2 回発行)やミュージアム・ショップ並びに他の博物館・学会等とのネットワークを活用し、事業内容と活動の広報に努める。またホームページの更新とタイムリーな情報提供に努める。

| 2014 年度:政策的計画の経費等一覧 | | | 部署:博物館事務室 | | | | |
|---------------------|----------------------------------|---|--------------|------|------|------|-----------|
| 順位 | 計画課題 (名称) | 計画の成果・効果 | 必要経費 (単位:万円) | | | | |
| | | | 今後3年 間総額 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 以降 経常化 |
| 1 | 特別展「江戸と国元〜いわき平、延岡、江戸、時を越える内藤家文書」 | 譜代大名内藤家文書が明治大学に譲渡されて51年目、目録刊行49年目を記念して内藤家文書の展覧会を行う。講演会の開催、図録の刊行などの関連事業も展開し、およそ5000人の入場者を見込む事ができる。これにより、本学の豊かな研究資源を広く社会にアピールする事ができる。 | 900 | 900 | | | |
| 2 | 明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業 | 2013年度から始まった第2期3ヶ年計画の2ヶ年目は、初年度に引き続き相互の特色ある収蔵資料を交換展示し、それをテーマに講演会や実習をおこなう。在学生教育・生涯教育の双方において、本大学にはない新規分野に関する学習機会の提供が実現するとともに、本大学の研究成果・研究資源について名古屋方面へアピールする機会となる。 | 675 | 110 | 565 | | |
| 3 | 内藤家文書研究の推進及び旧領延岡市との交流事業 | 5ヶ年計画の4・5ヶ年目は研究環境の整備を引き続きおこなう。重要史料の抽出調査実施により、その成果を博物館広報誌や『博物館研究報告』、企画展などで発表する事ができる。このような情報発信によって史料利用の利便性を向上させ、研究活動の活性化に資することができる。 | 200 | 100 | 100 | | |
| 4 | 大船渡市震災復興支援事業(博物館) | 本大学と大船渡市が締結した震災復興に関する協定に基づき、大船渡市立博物館における明大コレクション展覧会及び市民講座を開催する。当館の特色あるコレクションを現地で公開し、大船渡市立博物館の利用活性化を支援する。また、本大学から講師を派遣し、市民講座を開催することで本大学の教育研究成果を社会還元できる。 | 400 | 400 | | | |

※本表は2013年度における計画作成・提出時の記録で、2014年度に予算として措置されたものとは金額が異なる場合がある。

7 明治大学博物館のあゆみ

| | | | |
|---------------|-----|---|---|
| 1881 (明治14) 年 | 1月 | 明治法律学校開校 | |
| | | | × |
| | | | × |
| 1929 (昭和 4) 年 | 4月 | 刑事博物館を記念館 5 階に開設 (初代館長大谷美隆法学部教授1933年就任) | |
| 1931 (昭和 6) 年 | | 大学創立50周年記念刑事展覧会開催 (第 2 次 世 界 大 戦) | |
| 1949 (昭和24) 年 | | 新制大学へ移行 | |
| 1951 (昭和26) 年 | 4月 | 刑事博物館の運営を再開 2代館長に島田正郎法学部教授 (後、明治大学総長) 林久吉商学部教授 (初代商品陳列館長) らの商品研究所が資料室を開設 | |
| 1952 (昭和27) 年 | | 考古学陳列館が 2 号館 4 階に開館 (初代館長後藤守一文学部教授) | |
| 1954 (昭和29) 年 | 4月 | 刑事博物館が 2 号館 4 階へ移転 6月に一般公開開始 | |
| 1955 (昭和30) 年 | 2月 | 刑事博物館が博物館相当施設に指定される (2004年3月廃館にともない指定解除) | |
| 1957 (昭和32) 年 | 5月 | 商品陳列館が 2 号館 4 階に開館 (この頃には 3 館とも一般公開 3 館共通の入館案内を作成) | |
| 1960 (昭和35) 年 | | 考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授就任 | |
| 1966 (昭和41) 年 | 4月 | 小川町校舎に移転(考古 2 階・刑事 3 階・商品 4 階) 商品陳列館長に三谷茂商学部教授就任 (大 学 紛 争) | |
| 1976 (昭和51) 年 | 4月 | 刑事博物館長に鍋田一法学部教授就任 | |
| 1977 (昭和52) 年 | 4月 | 商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催 (年1回～2003年) | |
| 1981 (昭和56) 年 | | 1号館 (刑事 1 階・考古 3 階)、11号館 (商品 4 階) へ仮移転 商品陳列館長に刀根武晴商学部 教授就任 | |
| 1983 (昭和58) 年 | 9月 | 考古学陳列館長に大塚初重文学部教授就任 | |
| 1985 (昭和60) 年 | 11月 | 3館大学会館へ移転 (刑事・商品 3 階・考古 4 階) その際、考古学博物館に名称変更 | |
| 1987 (昭和62) 年 | 5月 | 考古学ゼミナール開講 | |
| 1988 (昭和63) 年 | 6月 | 考古学博物館友の会結成 | |
| 1991 (平成 3) 年 | 4月 | 博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置 | |
| | 10月 | 「明治大学博物館規程」制定 | |
| 1995 (平成 7) 年 | 4月 | 考古学博物館長に戸沢充則文学部教授就任 刑事博物館長に川端博法学部教授就任 | |
| | 10月 | 博物館入門講座を開講 | |
| 1996 (平成 8) 年 | 4月 | 考古学博物館長に小林三郎文学部教授就任 | |
| 1997 (平成 9) 年 | 4月 | 刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催 (～12月) | |
| 2001 (平成13) 年 | 4月 | 刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託 | |
| 2002 (平成14) 年 | 4月 | 商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授就任 | |

- 2004（平成16）年 4月 「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館
「明治大学博物館規程」改正施行（刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合）
国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」開催（～5月）
博物館長に小疇尚文学部教授就任
10月 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2005年3月）
- 2006（平成18）年 4月 博物館長に杉原重夫文学部教授就任
8月 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2007年3月）
10月 特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示
11月 明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる（～2010年3月）
- 2007（平成19）年 10月 事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
- 2009（平成21）年 4月 事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる
巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」開催 中国国家一級文物を展示（～5月）
- 2010（平成22）年 3月 南山大学人類学博物館と交流協定締結
- 2012（平成24）年 4月 博物館長に風間信隆商学部教授就任
- 2013（平成25）年 2月 ギロチンとニュルンベルグの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との
合同特別展「驚きの博物館コレクション展」（～3月）
3月 南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明性への問いと
コレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行
7月 岩宿遺跡出土石器（重文・29点）他記録類をはじめて海外へ出展（～9月） 韓国公州市石壮里
博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展を開催（～2014年2月）
- 2014（平成26）年 5月 開館10年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」を開催
（～6月）
7月 大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを
紹介した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催（～
8月）

編集後記

2014年度は通常の秋の特別展に加えて、博物館主催の大きな展示会を二つ開催しました。一つは、明治大学博物館がリニューアルオープンして10周年となる事を記念し、明治大学博物館のこれまでの来歴を検証し将来を展望する「明大博物館クロニクル」を開催しました。もう一つは、大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、大船渡市立博物館の活動支援の一環として、大船渡市立博物館で「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を開催しました。展示を通して明治大学博物館を見つめ直す年であったように思います。この10年の間に博物館を巡る環境は大きく変わりましたが、一方で、収蔵資料を核とした活動を行うという根本の価値観には揺らぎはありません。今後も、新しい動きを柔軟に取り入れつつ、博物館の土台となる収蔵資料を重視した活動を続けていきたいと考えています。

(編集子)

明治大学博物館年報 2014年度

2015年6月10日 発行

編集 明治大学学術・社会連携部博物館事務室
発行人

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4448

FAX 03-3296-4365

URL <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

印刷 株式会社サンヨー

東京都千代田区神田神保町1-30

